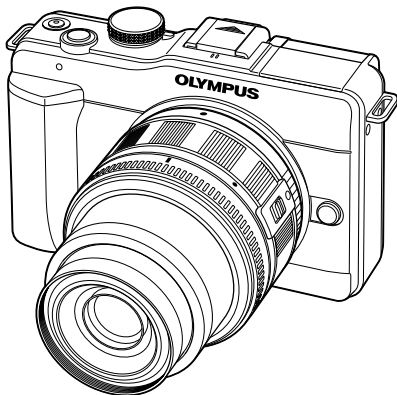
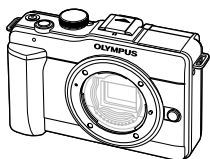
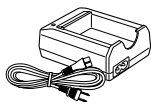
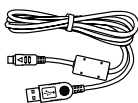
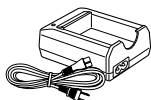
OLYMPUS

デジタルカメラ

E-PL1
E-PL1s

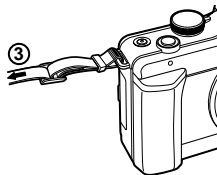
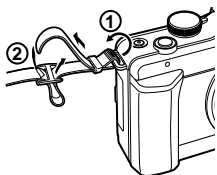
取扱説明書

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前に良くお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。
- この取扱説明書は、カメラのファームウェアVer1.0にもとづいて記載されています。カメラのファームアップにより機能の追加・変更があった場合、記載内容が異なります。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

同梱品を確認する

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。
万一、不足していたり、破損していた場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

- PCソフトウェアCD-ROM
- 取扱説明書
- 保証書

ストラップを取り付ける

1 矢印にしたがってストラップを通します。

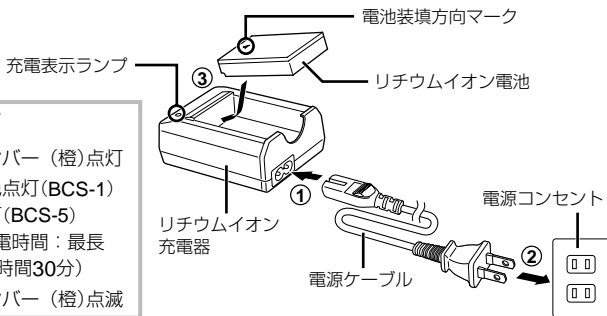
2 最後に強く引っ張り、抜けないことを確認します。

- もう一方のストラップ取り付け部にも、同様にストラップを取り付けます。

本書の表記について

本文中、以下の表記を使用しています。

注意	故障やトラブルになるような重要な注意事項や絶対に避けていただきたい操作について記載しています。
メモ	実際に操作するときに確認していただきたいことを記載しています。
こんなときは	知っておくと便利なことや役に立つ情報を記載しています。
☞	関連する情報の参照ページを記載しています。

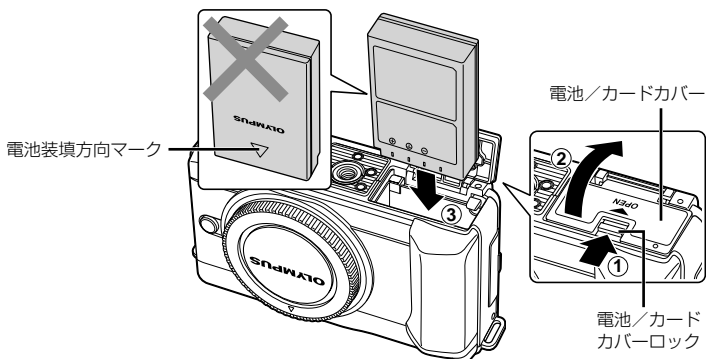
電池を充電する／入れる

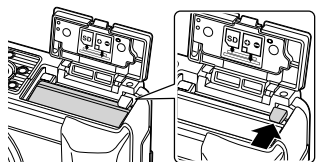
1 電池を充電します。

充電表示ランプ

充電中：	アンバー（橙)点灯
充電完了：	青色点灯(BCS-1) 消灯(BCS-5) （充電時間：最長約3時間30分）
充電エラー：	アンバー（橙)点滅

注意

- 充電の際は、それぞれの充電池に対応した充電器をお使いください。BLS-1の場合はBCS-1、BLS-5の場合はBCS-5が専用充電器です。

2 電池を入れます。

電池を取り出す

電池／カードカバーを開け閉めする際は、カメラの電源を切ってください。
電池を取り出すには、電池ロックノブを矢印の向きに押してロックを外してから取り出します。

メモ

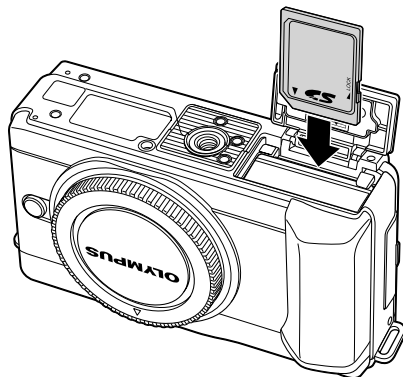
- 長時間の撮影には、電池の消耗に備えて予備の電池を用意されることをおすすめします。

カードを入れる／取り出す

1 カードを入れます。

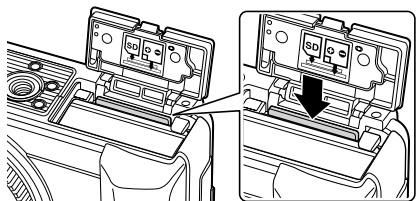
- SD/SDHCカード(以降カードと呼びます)がロックされるまで差し込みます。
☞「カードについて」(P. 95)

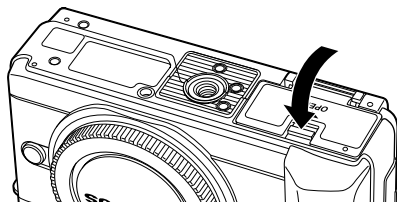
注意

- 電池やカードの出し入れは電源を切ってから行ってください。

カードを取り出す

差し込まれているカードを軽く押すと、カードが出てきます。カードをつまんで取り出します。

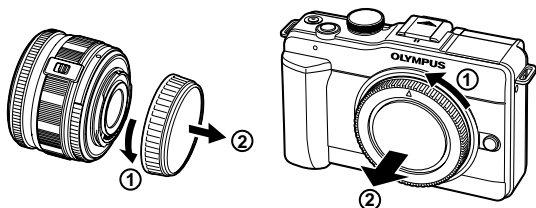
注意

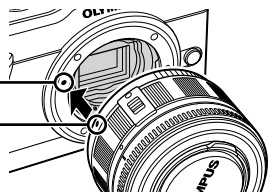
- カード書き込み中のマーク(P. 22)が表示されている間は、絶対に電池やカードを抜かないでください。

2 電池／カードカバーを閉めます。

- カチッと音がするまでしっかりと閉めます。

注意

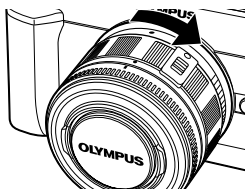
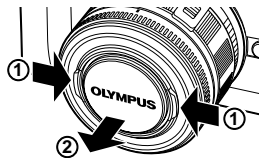
- カメラをご使用の際は、必ず電池／カードカバーを閉じてください。
- カード書き込み中のマーク(P. 22)が表示されている間は、絶対に電池やカードを抜かないでください。撮影した画像が保存されないだけではなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。

レンズを取り付ける

1 カメラのボディキャップとレンズのリアキャップを外します。

2 レンズを取り付けます。

- カメラのレンズ合わせマーク(赤印)にレンズの取り付け指標(赤印)を合わせ、レンズをボディに差し込みます。

- レンズをカチッと音がするまで矢印の方向に回します。

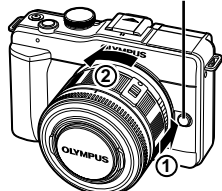
注意

- 電源が切れていることを確認してください。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。
- カメラ内部には触らないでください。

3 レンズキャップを外します。

レンズを取り外す

レンズ取り外しボタンを押しながら、矢印の方向に回します。

☞「交換レンズについて」(P. 97)

かんたんガイド

撮影前の準備

電源を入れる

1 ON/OFFボタンを押して電源を入れます。

- 電源が入ると電源ランプ(青)、液晶モニタが点灯します。
- 電源を切るには、再度ON/OFFボタンを押します。

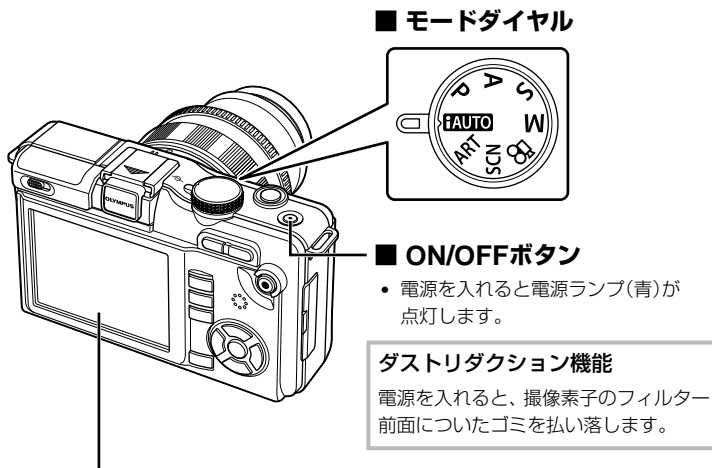
2 モードダイヤルをiAUTOにします。

■ モードダイヤル

■ ON/OFFボタン

- 電源を入れると電源ランプ(青)が点灯します。

ダストリダクション機能

電源を入れると、撮像素子のフィルター前面についたゴミを払い落します。

■ 液晶モニタ

- 電源を入れると液晶モニタが点灯します。

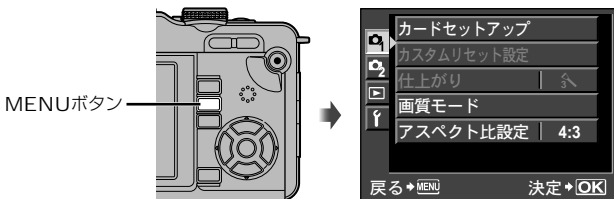
電池チェックについて

[電池アイコン:満] 点灯(緑):撮影できます。電源オン後、約10秒間表示します。
[電池アイコン:中] 点灯(緑):電池が少なくなっています。
[電池アイコン:少] 点滅(赤):充電してください。

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 メニューを表示します。

- MENUボタンを押すとメニュー画面が表示されます。

2 [ ]タブの[日時設定]を選びます。

- △▽で[ ]を選択し、▷を押します。
- [日時設定]を選んで▷を押します。

3 日付／時刻／日付表示順序を設定します。

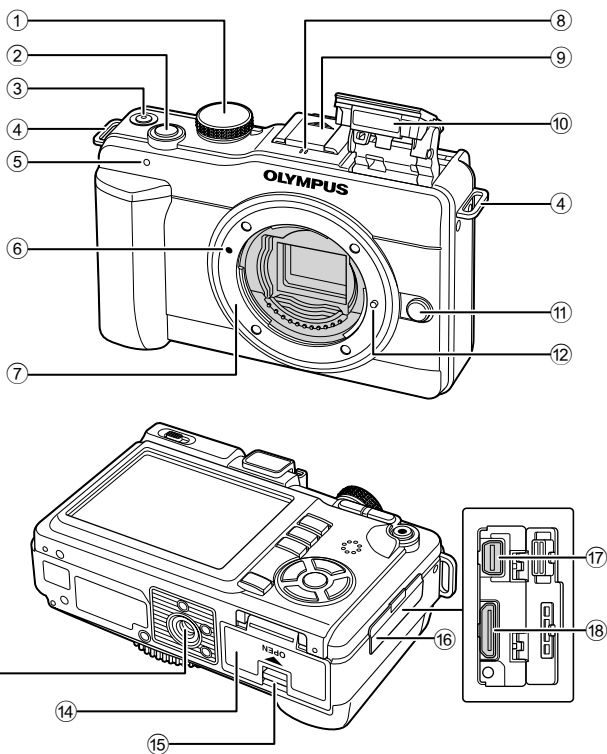
- 十字ボタンの◁▷で項目を選びます。
- 十字ボタンの△▽で内容を選びます。

時刻は24時間表示です。

4 設定を終了します。

- ⓄKボタンを押して日付／時刻を確定しメニューに戻ります。
- MENUボタンを押してメニューを終了します。

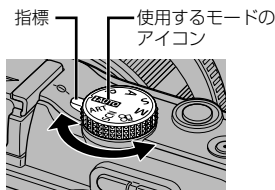
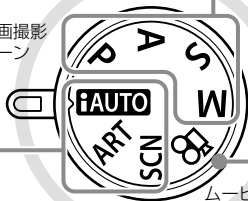
各部の名称と機能

カメラ

① モードダイヤル .... P. 6、10
② シャッターボタン............. P. 11、12、46
③ ON/OFFボタン .... P. 6
④ ストラップ取り付け部 .... P. 2
⑤ セルフタイマーランプ .... P. 30
⑥ レンズ合わせマーク.......................... P. 5
⑦ マウント（ボディキャップを外してからレンズを取り付けます。）
⑧ 録音マイク .... P. 57、65
⑨ ホットシューカバー
⑩ 内蔵フラッシュ .... P. 54
⑪ レンズ取り外しボタン .... P. 5
⑫ レンズロックピン
⑬ 三脚穴
⑭ 電池／カードカバー........................... P. 3
⑮ 電池／カードカバーロック .... P. 3
⑯ コネクタカバー
⑰ マルチコネクタ .... P. 67、84、87
⑱ HDMIミニコネクタ（タイプC）.........P. 67

① フラッシュスイッチ........................P. 54
② アクセサリーポート
③ 液晶モニタ .... P. 22、23
④ （再生）ボタン.................. P. 14、59
⑤ MENUボタン..............................P. 21
⑥ INFO（情報表示）ボタン .... P. 22、33、61
⑦ （消去）ボタン ....P. 15、59、66
⑧ ホットシュー ....P. 100
⑨ Fn/ ボタン .... P. 80/P. 59、60
⑩ ボタン........................ P. 59、60、62
⑪ ◉（ムービー）/ （プロテクト）ボタン .... P. 11、13、56/P. 59、65
⑫ スピーカー
⑬ 十字ボタン

各部の名称と機能

モードダイヤル

モードダイヤルを使っていろいろな撮影を楽しめます。
撮影モードを選び、シャッターボタンで静止画を、◉（ムービーボタン)でムービーを撮影します。

■ 応用撮影モード

P	プログラム撮影(P. 36)
A	絞り優先撮影(P. 37)
S	シャッター優先撮影(P. 38)
M	マニュアル撮影(P. 39)

- 絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。
- 応用撮影モードで設定した機能は、カメラの電源を切っても保持されます。

■ ムービー撮影モード

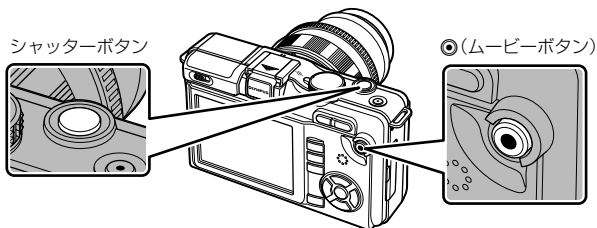
🎥	ムービー（P. 56)

■ かんたん撮影モード

iAUTO	iオートモード(P. 6)
ART	アートフィルター（P. 16)
SCN	シーンモード(P. 17)

- 撮影シーンに合わせて選びます。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。
- かんたん撮影モードでは、モードダイヤルを回したり、電源をオフにすると設定した機能は、初期設定に戻ります。

こんなときは

- カメラの設定をリセットしたい：☞「設定のリセット」(P. 70)

撮影モード	シャッターボタンによる静止画撮影	◉（ムービーボタン)によるムービー撮影
P	絞り値とシャッター速度を自動で最適値に設定します。	絞りとシャッター速度はカメラが自動的に設定します。
A	絞り値を選択して撮影します。	
S	シャッター速度を選択して撮影します。	
M	絞り値とシャッター速度を設定して撮影します。	
iAUTO	カメラが撮影シーンに最適な撮影モードを自動的に設定するフルオートモードです。	
ART	アートフィルターを選択して撮影します。	
SCN	シーンを選択して撮影します。	
🎥	ムービー撮影の設定で静止画を撮影します。	絞りやシャッター速度の効果やアートフィルターを使ったムービー撮影ができます。

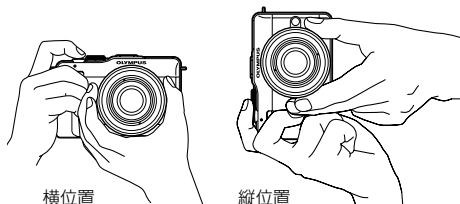
- ムービーを録画中にシャッターボタンを押すと、途中で録画を一時中断し静止画撮影を行います。静止画を撮影した後に録画を再開します。カードには静止画撮影前のムービーファイル、静止画ファイル、静止画撮影後のムービーファイルが別々に記録されます。◉（ムービーボタン)を押すと録画を終了します。
- 録画中の静止画撮影は1コマ撮影に制限され、セルフタイマーやフラッシュは使用できません。
- 連写中に◉（ムービーボタン)を押すと連写を終了します。ムービー撮影も行われません。
- 静止画とムービーはそれぞれの画質モードで撮影されます。
- 静止画撮影時とムービー撮影時でAFや測光の動作が異なる場合があります。
- 次の場合、◉（ムービーボタン)を押すと静止画撮影を終了しますが、ムービー撮影はできません。
  連写中／パノラマ撮影中／多重露出中／ブラケット撮影中など
- 次の場合、◉（ムービーボタン)を押してもムービー撮影はできません。
  バルブ／半押し中／拡大表示中／パノラマなど

静止画を撮る／ムービーを撮る

1 カメラを構えて構図を決めます。

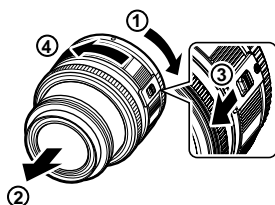
- レンズに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

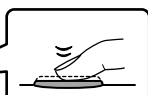
横位置

縦位置

UNLOCKスイッチのついているレンズをお使いの場合

UNLOCKスイッチ付きの沈胴式レンズは、沈胴状態では撮影できません。

ズームリングを矢印の方向(①)に回してレンズを繰り出してください(②)。

収納するときは、UNLOCKスイッチ(③)をスライドさせながら、ズームリングを矢印の方向(④)に回します。

2 ピントを合わせます。

- シャッターボタンを1段目まで浅く押します。(半押し)

- ピントが固定され、合焦マーク(●または◎)が点灯し、ピントの合った位置のAFターゲットが一瞬点灯します。

●	ハイスピードイメージャ AF対応レンズ*の場合
◎	その他のフォーサーズマウント規格レンズの場合

* 当社ホームページでご確認ください。

- カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。

シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは2段階になっています。シャッターボタンを1段目まで浅く押し、そのままの状態にすることを半押しといい、2段目まで深く押し込むことを全押しといいます。

3 撮影します。

静止画を撮る

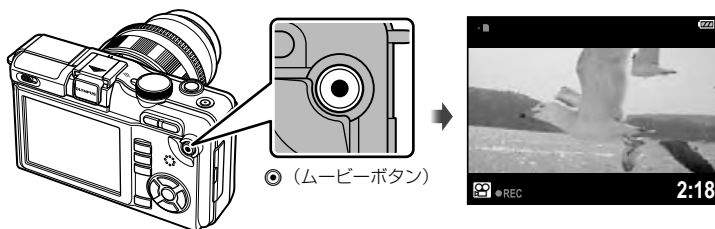
半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます(全押し)。

- シャッター音がして、撮影されます。

ムービーを撮る

◉（ムービーボタン)を押して撮影を開始します。

再度◉（ムービーボタン)を押して撮影を終了します。

◉（ムービーボタン）

こんなときは

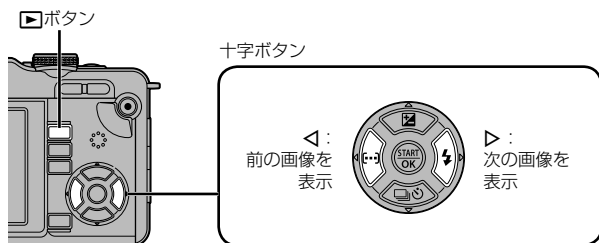
- 1分間何も操作しないとスリープモード(待機状態)になって液晶モニターが消灯しカメラは動作を停止します。シャッターボタンや▶ボタンなどを操作するとカメラは動作を再開します。☞「スリープ時間」(P. 74)

注意

- 画面内に高輝度の光源があると黒く表示されますが、撮影画像は正常に記録されます。
- 長時間使用すると撮像素子の温度が上昇し、ISO感度を高くした画像ではノイズや色むらが発生します。ISO感度を低くして撮影するかしばらく電源を切ってください。

再生する／消去する

1コマ再生

▶ボタンを押すと、最後に撮影した静止画／ムービーが表示されます。

静止画

ムービー

■ クローズアップ再生

- 1コマ再生でQボタンを押すごとに×14倍まで拡大表示されます。▦ボタンを押すと1コマ再生に戻ります。

■ インデックス再生

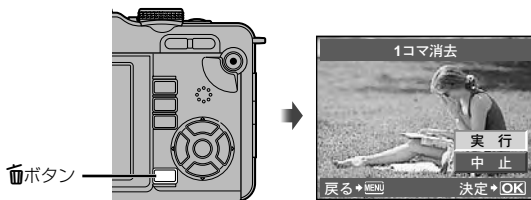
- 1コマ再生で▦ボタンを押すとインデックス再生します。
- Qボタンを押すと選択した画像が1コマ再生されます。

ムービー再生

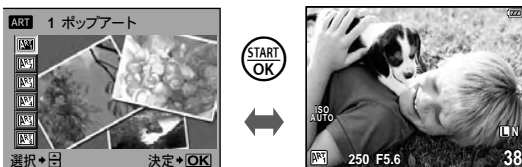
1コマ再生でムービーファイルを表示して、Ⓢボタンを押すと再生メニューが表示されます。**[ムービープレイ]**を選択して、Ⓢボタンを押すとムービー再生が始まります。

• MENUを押すと中断します。

画像の消去

消去したい画像を再生し、🗑ボタンを押します。**[実行]**を選択しⓈボタンを押すと消去されます。

アートフィルターを使う

1 モードダイヤルをARTに設定します。

- アートフィルターメニューが表示されます。
  △▽でフィルターを選択します。

- Ⓞボタンを押すかシャッターボタンの半押しでライブビュー画面に変わります。
  Ⓞボタンを押すとアートフィルターメニューに戻ります。

2 撮影します。

■ アートフィルターの種類

ART1	ポップアート	ART4	トイフォト
ART2	ファンタジックフォーカス	ART5	ジオラマ
ART3	ラフモノクローム	ART6	ジェントルセピア

注意

- アートフィルターはRAW画像には適用されません。
- アートフィルターでRAW設定時、画質は自動的にLN+RAWに設定されます。
- アートフィルターの種類によっては、画像の粗さが強調される場合があります。

こんなときは

- アートフィルター／シーンの撮影機能の変更はメニュー（P. 21）やボタン（P. 9）で行います。
- ライブコントロール（P. 20）やスーパーコンパネ（P. 81）が使えるようにカスタマイズできます。☞「📷CONTROL表示」（P. 74）

シーンモードを使う

1 モードダイヤルをSCNに設定します。

- シーンメニューが表示されます。
  △▽でシーンを選択します。

- ボタンを押すかシャッターボタンの半押しでライブビュー画面に変わります。ボタンを押すとシーンメニューに戻ります。

2 撮影します。

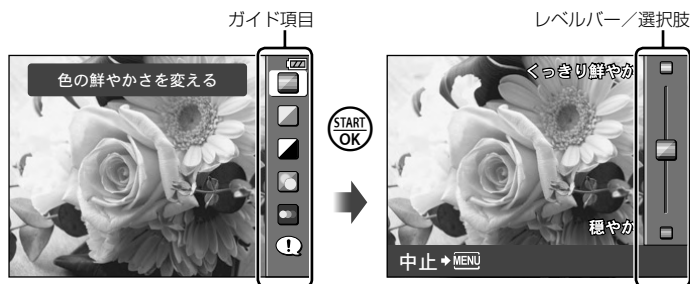
■ シーンモードの種類

ポートレート	チャイルド	夕日
eポートレート	ハイキー	文書
風景	ローキー	パノラマ(P. 35)
風景&人物	ぶれ軽減	打ち上げ花火
スポーツ	マクロ	ビーチ&スノー
夜景	ネイチャーマクロ	
夜景&人物	キャンドル	

注意

- **[eポートレート]**はRAW画像には適用されません。
- **[eポートレート]**でRAWおよびJPEG+RAW設定時は、RAW画像と効果適用後のJPEG（M（2560×1920））が保存されます。
- **[eポートレート]**でJPEG設定時は、効果適用前(設定画質)と適用後(M（2560×1920))の2枚を保存します。

iオートモードのライブガイドを使う

iオートモード(iAUTO)はすべてカメラまかせの簡単撮影ですが、ライブガイドを使うと鮮やかさ、色合い、明るさや、ぼかし、動きなどいろいろな静止画表現をライブビュー上でわかりやすい言葉と簡単な操作でガイドしてくれます。

ガイド項目	レベルバー／選択肢			処理内容[*2]
色の鮮やかさを変える[*1]	くっきり鮮やか	⇔	穏やか	彩度、コントラスト、階調など
色合いを変える[*1]	暖かい	⇔	クール	色温度、階調など
明るさを変える[*1]	明るい	⇔	暗い	露出補正、階調など
背景をぼかす[*1]	背景をぼかす	⇔	背景までくっきり	絞り、ライブプレビューなど
動きを表現する[*1]	動きを流す	⇔	動きを止める	シャッター速度(1/2～最高速)、フレームレートなど
撮影のヒント	• 子供の撮影ヒント • ペットの撮影ヒント • 花の撮影ヒント • 料理の撮影ヒント • 構図を工夫して撮影する			—

*1 ライブビューの表示フレームレートが遅くなります。

*2 処理内容は概略です。他の撮影モードで設定可能な撮影パラメータとは直接的に対応していません。

1 (START/OK)ボタンを押してライブガイドを表示し、十字ボタンの△▽でガイド項目を選択し(START/OK)を押します。

2 十字ボタンの△▽でレベルを選択し、効果や説明を確認します。

- シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。
- **[背景をぼかす]**または**[動きを表現する]**で設定を確定すると、プレビュー表示から撮影用のライブビューに戻りますが、効果は撮影した画像に反映されます。

3 撮影します。

- シャッターボタンを押して撮影します。
- MENUを押すとライブガイドは終了します。

注意

- ライブガイドでRAW設定時、画質は自動的にLN＋RAWに設定されます。
- ライブガイド設定はRAW画像には適用されません。
- ライブガイドの設定レベルによっては、画像の粗さが強調される場合があります。
- ライブガイドの設定レベルを変えても、効果をライブビューであまり確認できない場合があります。
- ライブガイドではフラッシュは無効です。
- ライブガイド項目を変更すると、前の項目の設定はキャンセルされます。
- ライブガイドの設定がカメラの連動範囲外になると、白く飛んだり暗い画像になる場合があります。

ライブコントロールを使う

ライブコントロールを使うと、ライブビューで効果を確認しながら撮影機能を設定できます。

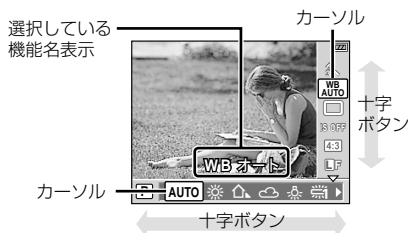
■ 使用可能な設定機能

*1 **P**、**A**、**S**、**M**、iAUTOモードのみ
*2 ARTまたはSCNモードのみ
*3 ムービーモードのみ

1 START/OKボタンを押してライブコントロールを表示します。

- 再度START/OKボタンを押すとライブコントロールの表示が消えます。

2 十字ボタンの△▽でカーソルを設定したい機能に移動し、◁▷で設定を選択しSTART/OKボタンを押します。

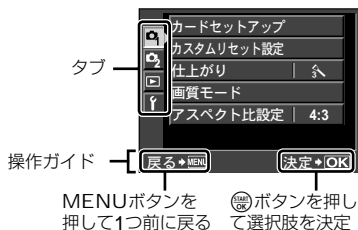
- 何も操作せずに約8秒間経過すると、設定が確定します。

注意

- 撮影モードによっては選択できないメニューがあります。

こんなときは

- ライブコントロールの表示／非表示を切り換えたい：☞「CONTROL表示」（P. 74）

メニューを使う

1 MENUボタンを押し、メニューを表示させます。

2 △▽でタブを選択し、Ⓞを押します。

3 △▽で機能を選択し、Ⓞを押して各設定画面に進みます。

4 △▽で設定値を選択しⓄボタンを押して、設定内容を確定します。

- 繰り返しMENUボタンを押して、メニューを終了します。

メモ

- メニューで設定できる機能については、「メニュー一覧」(P. 106)をご覧ください。

こんなときは

- カメラを自分の撮影スタイルに合わせたい：☞「カメラをカスタマイズする」(P. 71)

カスタムメニューで行う設定は、撮影者の好みや撮影目的にカメラを合わせるための設定です。頻繁に変更する性質の設定内容ではありません。簡単な撮影から高度な撮影まで、撮影に関する設定は初期メニューの機能で十分可能です。通常はカスタムメニューを表示する必要はありません。

表示情報

撮影時

INFOボタンを使って表示を切り換えることができます。

☞「情報表示を切り換える」(P. 33)

① カードー書き込み中 ....P. 4
② 内部温度上昇警告 ℃/℉ ....P. 92
③ スーパーFP発光 FP ....P. 103
④ RCモード ....P. 103
⑤ ホームポジション HP ....P. 45
⑥ オートブラケット BKT ....P. 48
⑦ 多重露出 ....P. 51
⑧ フラッシュ ....P. 54
(点滅:充電中、点灯:充電完了)
⑨ 電池残量
点灯(緑): 撮影できます
点灯(緑): 電池残量が少なくなっています
点滅(赤): 充電してください
⑩ 合焦マーク ....P. 12、46
⑪ アートフィルター ....P. 16
シーン ....P. 17
仕上がり ....P. 52
⑫ ホワイトバランス ....P. 41
⑬ 連写/セルフタイマー ....P. 30
⑭ 手ぶれ補正 IS1 IS2 IS3 ....P. 50
⑮ アスペクト比 ....P. 32
⑯ 画質モード ....P. 31
⑰ 撮影可能枚数 ....P. 105
録画可能時間
⑱ 上:フラッシュ補正 ....P. 55
下:露出補正バー ....P. 40
⑲ 露出補正値 ....P. 40
⑳ 絞り値 ....P. 36–39
㉑ シャッター速度 ....P. 36–39
㉒ 撮影モード .... P. 10、36–39
㉓ AEロック AEL ....P. 47
㉔ フラッシュ補正 ....P. 55
㉕ ISO感度 ....P. 41
㉖ 顔検出 .... P. 32、74
㉗ AF方式 ....P. 44
㉘ 測光方式 ....P. 47
㉙ フラッシュモード ....P. 54
㉚ マイモード ....P. 73
㉛ ダストリダクション ....P. 94

再生時

INFOボタンを使って表示を切り換えることができます。

☞「情報表示」(P. 61)

簡易表示

総合表示

やりたいこと別かんたん検索

使いたい機能や知りたい機能から、説明が記載されているページをかんたんに調べることができます。

撮影について

白いものを白く／黒いものを黒く撮りたい	▶	ライブガイド	18
		露出補正	40
		ハイキー／ローキー	53
できるだけノイズ(ざらつき)を抑えて撮りたい	▶	長秒時ノイズ低減	76
液晶モニタを見やすくしたい	▶	モニタ調整	69
		LVブースト	74
手ぶれを防ぎたい	▶	手ぶれ補正	50
		ぶれ軽減	17
		ISO感度	41、75
		セルフタイマー	30
水平・垂直を確認しながら撮りたい	▶	目盛り線	33、74
撮影する画像の縦横比を変えたい	▶	アスペクト比	32
構図を決めるためのガイドを表示したい	▶	表示罫線選択	74

再生について

			☞
撮影後に画像を確認したい	▶	撮影確認	69
ピントが合っているか確認したい	▶	クローズアップ再生	14、60
目的の画像をすばやく探したい	▶	インデックス再生／カレンダー再生	14、60
テレビに映して楽しみたい	▶	テレビ再生	67
逆光で暗くなってしまった画像を明るくしたい	▶	JPEG編集	63

設定について

			☞
設定した内容を保存したい	▶	カスタムリセット設定	70
		マイモード設定	73、104
メニューの表示言語を切り換えたい	▶	言語切り換え	69

もくじ

かんたんガイド　3

やりたいこと別かんたん検索　24

基本的な撮影と便利な機能　30

いろいろな撮影と詳細な設定　36

もくじ

1 基本的な撮影と便利な機能

連続写真を撮影する（連写）／セルフタイマーを使う

シャッターボタンを全押ししている間、約3コマ/秒で連続撮影ができます。また、セルフタイマーを使うと記念撮影で撮影者自身も写りたいときや、カメラを固定して手ぶれのない静止画を撮りたいときに便利です。

1 □ᵢ/⏲ボタン（▽）を押して、選択項目を表示させます。

2 ◁▷で項目を選択し、ⓄⓀボタンを押します。

□ **単写**	一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。
□ᵢ **連写**	シャッターボタンを押している間、約3コマ／秒で連続撮影できます（**[AF方式]**（P. 44）がS-AFまたはMFのとき）。
⏲12s **セルフタイマー 12s**	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、撮影されます。
⏲2s **セルフタイマー 2s**	シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しするとセルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、撮影されます。

メモ

- セルフタイマー作動中に撮影を中止するには、□ᵢ/⏲ボタンを押します。
- 連写中、ピント･露出･ホワイトバランスは、最初の1コマで固定されます（S-AF、MF時）。

注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。
- セルフタイマー撮影時に、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがボケる原因になります。

画質を選択する（画質モード）

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、必要に応じて画質モードを選択できます。通常は、使い勝手のよいJPEGの🅻Nのご使用をおすすめします。

撮影する画像の画質モードを設定する

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽で画質モードを選択します。

2 ◁▷で項目を選択してOKボタンを押します。

- 選択した画質モードが画面に表示されます。

画質モード

■ 選択可能な画質モード

選択可能な画質モードは、RAW、JPEG（4種類）です。表にある4種のJPEG（🅻F，🅻N，🅼N，🆂N）が初期設定です。RAW+JPEGの場合、RAWとJPEGの2種類の画像を同時に記録します。

■ 画像サイズと圧縮率の組み合わせ

JPEGは画像サイズ（🅻、🅼、🆂）と圧縮率（SF、F、N、B）の組み合わせからできています。

画像サイズ	圧縮率				ピクセルサイズ	用途
	SF（Super Fine）	F（Fine）	N（Normal）	B（Basic）		
🅻(Large)	🅻SF	🅻F*	🅻N*	🅻B	4032×3024	プリントサイズに合わせて選択
🅼(Middle)	🅼SF	🅼F	🅼N*	🅼B	3200×2400	
					2560×1920	
					1600×1200	
🆂(Small)	🆂SF	🆂F	🆂N*	🆂B	1280×960	
					1024×768	
					640×480	小さいプリントやホームページ用

* 初期設定

- 組み合わせの異なる4種類に変更することが可能です。☞「画質設定」（P. 76）
- 画像サイズ🅼、🆂のピクセルサイズを変更することが可能です。☞「ピクセルサイズ」（P. 77）

RAW画像とは

写真にする前の未加工のデータです。撮影後に自分で絵作りをする場合や、念のために保存しておくことを主目的とするデータファイルです。他のカメラで再生したり、一般のソフトウェアでの表示、プリント予約はできません。拡張子は「.ORF」です。RAW画像をこのカメラで編集し、JPEGデータで保存することができます。☞「画像編集」（P. 63）

アスペクト比を設定する

撮影時のアスペクト比（横×縦）を変更します。撮影目的に応じた縦横比を**[4:3]**（基準）/ **[16:9]** / **[3:2]** / **[6:6]**から選びます。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽でアスペクト比設定を選択します。

2 ◁▷でアスペクト比を選択して、Ⓞボタンで確定します。

注意

- JPEG形式の画像は、アスペクト比に応じてトリミングされて保存されますが、RAW画像はトリミングされずに、撮影時のアスペクト比情報が付加された状態で記録されます。
- RAW画像再生時は、アスペクト比に応じた枠が表示されます。

こんなときは

- 撮影した画像のアスペクト比を変更したい、または、撮影した画像をトリミングしたい：☞「画像編集」（P. 63）

顔検出機能を使う

顔検出が**[ON]**の場合は、測光で**[(デジタルESP測光)]**（P. 47）を選択しているときやAFターゲット選択で**[(オールターゲット)]**（P. 45）を選択しているときに、人物の顔を検出して白枠を表示し、測光の調整やピント合わせを行います。

[顔検出]を[ON]にする

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽で**[顔検出]**を選択します。

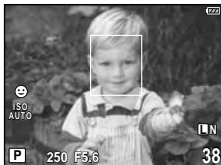
2 ◁▷で**[ON]**を選択して、Ⓞボタンを押します。

顔検出機能を使って撮影する

1 カメラを被写体に向けると、検出した顔に白い枠が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

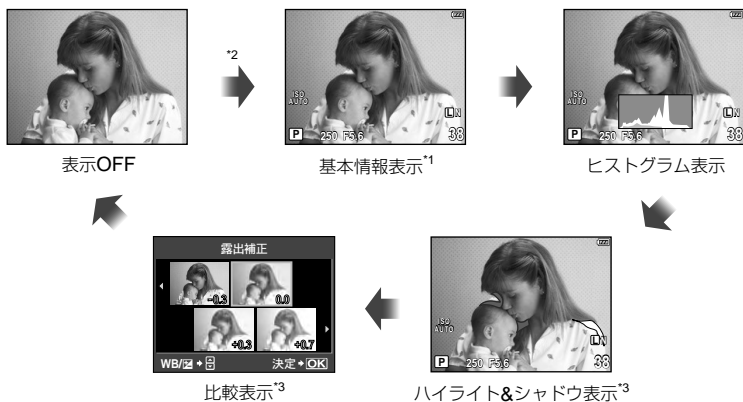
3 シャッターボタンを全押しします。

1 基本的な撮影と便利な機能

注意

- 連写中は最初の1コマのみ顔検出機能が働きます。
- 被写体によっては、顔が検出できないことがあります。
- AFターゲット選択で**[[・]（シングルターゲット）]**を選択しているときは、その位置でピント合わせをします。
- **[(デジタルESP測光)]**以外の測光モードを選択しているときは、その位置で測光します。

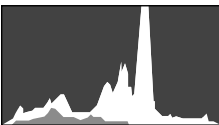
情報表示を切り換える

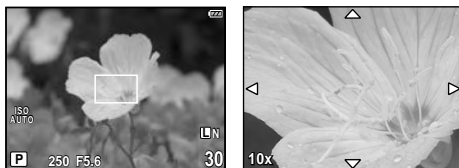
撮影画面でINFOボタンを繰り返し押して、液晶モニタに表示される情報を切り換えることができます。

表示OFF　基本情報表示*1　ヒストグラム表示　ハイライト&シャドウ表示*3　比較表示*3

*1 **[/INFO表示設定]**（P. 74）で、方眼／黄金分割／目盛／対角線の罫線表示にすることもできます。
*2 多重露出撮影中（P. 51）は、この後「多重露出表示」に切り換わります。
*3 **[/INFO表示設定]**（P. 74）で**[ON]**に設定すると表示できます。

ヒストグラムについて

ヒストグラムは、画像の明るさの分布を示したグラフで、画像の露出状況を判断する目安になります。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの画素数を表します。明るさ上限設定値以上の場合は赤，明るさ下限設定値以下の場合は青で表示されます。緑の部分はスポット測光エリア内の輝度分布を示しています。

1 基本的な撮影と便利な機能

拡大表示時の操作

撮影画面でQボタンを押すと、拡大枠が表示されます。撮影画面に戻るには㊉ボタンを押します。

△/▽/◁/▷	拡大枠を移動できます。㊉ボタンを長押しすると、拡大枠の位置がリセットされます。
シャッター半押し	AFターゲットの設定にかかわらず、拡大枠でピント合わせを行います。
Q	拡大枠の部分を拡大表示します。再度Qボタンを押すと、拡大枠表示に戻ります。
INFO	拡大倍率変更画面が表示されます。△▽を押すと、倍率(7倍/10倍/14倍)が切り換わります。㊉ボタンまたは、INFOボタンを押すと、元の画面に戻ります。

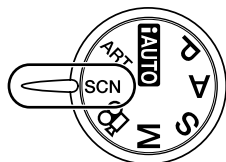
注意

- Qボタンはズーム撮影ボタンではありません。静止画撮影状態のときにQボタンを押すと拡大表示されますが、これはピント確認のための機能であり、ズーム撮影されるわけではありません。通常の撮影状態に戻るには㊉ボタンを押します。

パノラマ写真を撮影する

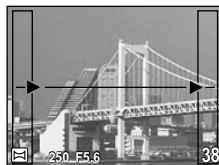
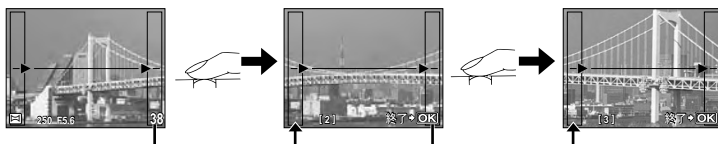
撮った画像をつなぎ合わせて、パノラマ合成画像を作成できます。パノラマ合成をするには、お使いのパソコンに付属のPCソフトウェア（ib）をインストールする必要があります。☞「付属のPC用ソフトウェア（ib）のインストールをする」（P. 88）

パノラマ合成する画像を撮る

1 モードダイヤルをSCNにします。

2 [パノラマ]を選択して、Ⓢボタンを押します。

3 △▽◁▷で画像をつなぐ方向を選びます。

4 ガイド枠を目安に、1コマ目を撮影します。

- ピントや露出などは、1コマ目の撮影で決定されます。

5 ガイド枠内が、前の画像と重なる構図で次のコマを撮影します。

- 最大10枚までの撮影と合成が可能です。10枚撮り終わると（警告）マークが表示されます。

6 最後のコマを撮影した後にⓈボタンを押して、パノラマ撮影を終了します。

注意

- パノラマ撮影時には、前に撮影した位置合わせ用の画像は残りません。画像に表示される枠や目印となる被写体を目安に、重なり合う画像の端が枠の中に重なるように構図を設定してください。

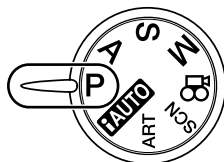
メモ

- 1コマ目の撮影前にⓈボタンを押すと、シーンモードの選択メニューに戻ります。
撮影の途中でⓈボタンを押すと、一連のパノラマ撮影を終了し、続けて次のパノラマ撮影ができます。

2 いろいろな撮影と詳細な設定

カメラまかせで撮影する（P プログラム撮影）

Pモードは被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定する露出モードです。

1 モードダイヤルを**P**にします。

2 撮影します。

- 撮影時の適正なシャッター速度と絞り値が液晶モニタに表示されます。

プログラムシフト（Ps）

Pモードのときに☒ボタン（△）を押すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを△▽で変更することができます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフトになると、撮影モードが**Ps**に変わります。プログラムシフトを解除するには、**Ps**の表示が**P**に変わるまで△▽を押すか、電源を一度切ります。

注意

- フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

こんなときは

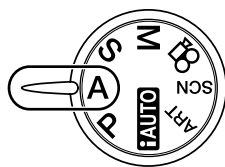
- シャッター速度と絞り値が点滅しているときは、適正露出が得られません。詳しくは「露出警告表示」（P. 101）をご覧ください。

絞りを決めて撮影する（A 絞り優先撮影）

Aモードは、絞り値を設定するとカメラが適正なシャッター速度を自動的に設定する露出モードです。

1 モードダイヤルを**A**にします。

2 ボタン（△）を押した後、△▽で絞り値を設定します。

絞り値

3 撮影します。

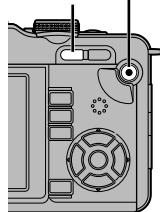
- 絞り（F値）を開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。

絞り値（F値）を小さくしたとき

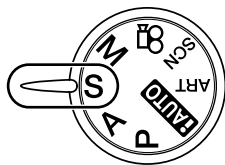
絞り値（F値）を大きくしたとき

プレビュー機能

Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）にあらかじめ**[プレビュー]**（P. 80）を設定しておくと、**Fn**ボタンまたは◉（ムービーボタン）を押したときに設定されている絞り値まで絞り込み、ピントの合っている範囲（被写界深度）を液晶モニタで確認することができます。

☞「Fnボタン機能、◉ボタン機能」（P. 80）

シャッター速度を決めて撮影する(S シャッター優先撮影)

Sモードは、シャッター速度を設定するとカメラが適正な絞り値を自動的に設定する露出モードです。

1 モードダイヤルを**S**にします。

2 ボタン(△)を押した後、△▽でシャッター速度を設定します。

シャッター速度

3 撮影します。

- シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影できます。シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されますが、躍動感や動きのある仕上がりになります。

シャッター速度を速くしたとき

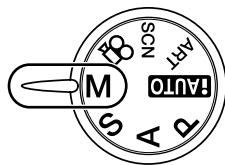
シャッター速度を遅くしたとき

絞りとシャッター速度を自分で決める（M マニュアル撮影）

Mモードは絞り値とシャッター速度を自分で設定する露出モードです。シャッターボタンを押している間露光し続けるバルブ撮影にも設定できます。

1 モードダイヤルを**M**にします。

2 ⊠ボタン（△）を押した後、◁▷で絞り値を設定し、△▽でシャッター速度を設定します。

- 絞り値の設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は1/2000 ～ 60秒、および**[BULB]**に設定できます。

3 撮影します。

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生する場合があります。これは撮像素子の温度上昇や、撮像素子内部の駆動回路が熱源となり、本来撮像素子に光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、長秒時の露出で顕著に表れます。これらのノイズを軽減するために、このカメラは長秒時ノイズ低減が働きます。☞「長秒時ノイズ低減」（P. 76）

注意

- **M**モードでは、露出補正はできません。

露出終了タイミングを決めて撮影する（バルブ撮影）

シャッターボタンを押している間、露光し続けるバルブ撮影を行います。被写体にあわせて露出終了タイミングを決めて撮影します。花火や夜景などの撮影に使います。
Mモードでシャッター速度を**[BULB]**に設定します。

- 液晶モニタに**[BULB]**と表示されます。

こんなときは

- 一定時間経過後、バルブ撮影が自動で終了するようにしたい：☞「BULBリミッター」（P. 75）
- MFで撮影中にピントが動かないようにしたい：☞「BULB中MF」（P. 72）

注意

- バルブ撮影時はしっかりした三脚や台でカメラを固定して撮影することをおすすめします。
- バルブ撮影中は、以下の機能は使用できません。
  連写／セルフタイマー撮影／ AEブラケット撮影／手ぶれ補正／フラッシュブラケット

画像の明るさを変えて撮影する（露出補正）

ボタン（△）を押して、◁▷で露出補正を行います。+補正にするとより明るく、−補正にするとより暗く表現できます。±3.0EVの範囲で補正できます。

–補正　　補正0　　+補正

こんなときは

- 露出の調整間隔を変更したい：☞「露出ステップ」（P. 75）

注意

- iAUTO、M、SCNでは、露出補正はできません。
- 露出基準を変えると補正の範囲が制限されます。

露出補正やホワイトバランスの効果を比較しながら撮影する

4分割された画面上で露出補正やホワイトバランスの効果を比較しながら撮影することができます。

1 INFOボタンを繰り返し押して、比較表示画面を表示します。

☞「情報表示を切り換える」（P. 33）

- △▽で、露出補正とホワイトバランスの比較画面を切り換えられます。

2 ◁▷で設定値を選択し、ⓚボタンを押します。

- 選択した設定値で、撮影できる状態になります。

注意

- iAUTO、ART、SCN、🎥ではこの機能は使用できません。

2 いろいろな撮影と詳細な設定

感度を変更する（ISO感度）

ISO感度の数値を大きくするとノイズ（ざらつき）が大きくなりますが、暗いところでの撮影が可能になります。通常は、ノイズと階調のバランスのとれたISO200を基準とし、撮影状況に応じて感度が変わる**[AUTO（オート）]**のご使用をおすすめします。ISO100は階調よりもノイズの少なさを優先する場合にお使いください。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽でISO感度を選択します。

2 ◁▷で項目を選択し、Ⓞボタンを押します。

- 選択したISO感度が画面に表示されます。

AUTO（オート）	撮影状況に応じて自動的に感度が変わります。
100 ～ 3200（E-PL1） 100 ～ 6400（E-PL1s）	ISO感度を選択できます。

こんなときは

- **[ISOオート設定]**（P. 75）では、基準値（自動的に変わる感度の上限値）を設定できます。
- **[ISO感度ステップ]**（P. 75）では、ISOステップを設定できます。
- **[ISOオート有効]**（P. 75）では、**M**モードでも**[AUTO（オート）]**に設定することができるようになります。

画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は白いものを白く写すための機能です。通常は**[AUTO（オート）]**で問題ありませんが、適切な白にならない場合や、逆に色合いを出したい場合は光源に合わせて、**[AUTO（オート）]**以外のホワイトバランスを手動で設定します。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽でホワイトバランスを選択します。

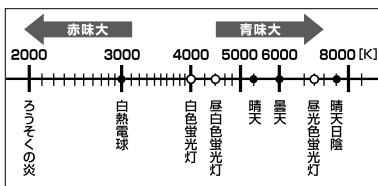
2 ◁▷で項目を選択し、Ⓞボタンを押します。

- 選択したホワイトバランスが画面に表示されます。

WB モード		設定される色温度	適した撮影シーン
オート ホワイトバランス	オート	—	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
プリセット ホワイトバランス	☼	5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
	⌂	7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
	☁	6000K	曇天の日に屋外で撮るとき
	電球	3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
	蛍光灯1	4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
	蛍光灯2	4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
	蛍光灯3	6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
	WB⚡	5500K	フラッシュ撮影のとき
ワンタッチ ホワイトバランス （P. 43）	ワンタッチ	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度	白かグレーの測定できる被写体があり、特性のわからないフラッシュや光源のときや、光源が複数あって特定できないとき
カスタム ホワイトバランス	CWB	2000K ～ 14000K	INFOボタンを押した後、◁▷で色温度を選択し、OKボタンを押します。

色温度とは

物質は温度が高くなると赤みを帯びて光り始め、さらに高くなると青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。

- 図中の白丸で示した蛍光灯の色は色温度の軸から少し外れた色をしており、便宜上色温度換算した値です。

ホワイトバランス補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

1 カスタムメニュー（P. 71）のGタブで［**WBモード**］を選択します。

2 補正したいホワイトバランスを選択して、▷を押します。

3 ◁▷で補正する方向を選択し、△▽で補正値を変更します。

A方向（赤–青）で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で赤味がかり、–方向で青味がかった画像になります。

G方向（緑–赤紫）で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、+方向で緑の色味が増し、–方向で赤紫がかった画像になります。

- それぞれ–7 ～ +7までの補正が可能です。

4 ㊖ボタンを押して、設定を終了します。

こんなときは

- 補正したホワイトバランスを確認したい：補正値を設定した後、試し撮りをするためにカメラを向けます。◉（ムービーボタン）を押すと、設定したホワイトバランスの条件で撮影したサンプル画像が表示されます。
- すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい：☞「全WBモード補正」（P. 76）

ワンタッチホワイトバランスの設定

撮影する光源下で白い紙などにカメラを向けて、ホワイトバランスを測定します。自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた撮影に有効です。

1 ［ (ワンタッチホワイトバランス)］（P. 42）を選択した後、INFOボタンを押します。

2 カメラを白い紙に向けます。

- 紙が画面いっぱいに写るようにカメラを構えます。影の部分ができないようにしてください。

3 シャッターボタンを全押しします。

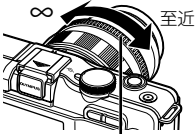
- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

4 ［実行］を選択して㊖ボタンを押します。

- ホワイトバランスがプリセットホワイトバランスの1つとしてカメラに登録されます。
- 新しいワンタッチホワイトバランスを撮影するまで、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

- 明るすぎる、暗すぎる、極端な色味の場合は**［不適切なデータです 撮り直してください］**と表示され登録できません。撮影条件を変えて、手順1からやりなおしてください。
- 紙の色はグレーのように無色であれば、白くなくても構いません。

ピントの合わせ方を設定する（AF方式）

ピント合わせの方法（フォーカスモード）を選択します。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽でAF方式を選択します。

2 ◁▷で項目を選択し、Ⓞボタンを押します。

- 選択したAF方式が画面に表示されます。

S-AF（シングルAF）	シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。ピントが合うと、ピピッという音がして、画面に合焦マークとAFターゲットが点灯します。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。
C-AF （コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせを繰り返します。被写体にピントが合うと、画面に合焦マークが点灯します。また、1回目と2回目の合焦時には、ピピッという音がします。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。 • ピントが合ってもAFターゲットは点灯しません。 • フォーサーズマウント規格レンズでは、S-AFで動作します。
MF （マニュアルフォーカス）	任意の位置に手動でピントを合わせることができます。 ∞　至近 フォーカスリング
S-AF+MF （S-AFとMFの併用）	S-AFでピントを合わせた後、フォーカスリングを回してピントの微調整ができます。
C-AF+TR（追尾AF）	シャッターボタンの半押しでピントの合った被写体を、半押ししている間追尾してピント合わせの動作を繰り返します。 • 追尾被写体を見失うと、AFターゲットが赤く表示されます。シャッターボタンを離して、もう一度被写体に合わせてシャッターボタンを半押ししてください。 • 下記の条件では追尾AFは効きません。S-AFになります。 フォーサーズマウント規格レンズの場合

こんなときは

- **［レリーズ優先S］**（P. 73）/**［レリーズ優先C］**（P. 73）でピントが合わない場合にシャッターを切る／切らないを設定できます。
- **［MFアシスト］**（P. 72）でフォーカスリングを回したとき拡大表示するように設定できます。
- **［フォーカスリング］**（P. 72）で、フォーカスリングの回転方向を変更することができます。

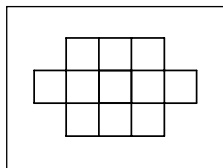
ピントの位置を自分で決める（AFターゲット選択）

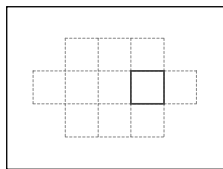
このカメラにはオートフォーカスで被写体にピントを合わせるためのAFターゲットが11点あります。**[AFターゲット選択]**では、被写体や構図に合わせたAFターゲットを選択します。

1 [▪▪▪]ボタン（◁）を押して、選択項目を表示します。

2 △▽◁▷でAFターゲットを選択し、Ⓞボタンを押します。

緑の枠が全体を囲んでいる場合（[::::]オールターゲット）

- 11点のAFターゲットの中からカメラが自動的にピント合わせをします。

緑の枠が個別のAFターゲットを囲んでいる場合（[・]シングルターゲット）

- そのAFターゲットでピント合わせをします。

登録したAFターゲットで撮影する

1 **Fn**ボタンまたは◉（ムービーボタン）にあらかじめ**[[▪▪▪]HOME]**を設定します。

☞「[▪▪▪]HOME」（P. 80）

2 あらかじめホームポジションとして使うAFターゲットを設定します。

- ボタンを押したときの状態でホームポジションが登録されます。
  ☞「[▪▪▪]HOME登録」（P. 72）

3 撮影時に**Fn**ボタンまたは◉（ムービーボタン）を押します。

- 登録したAFターゲットの位置で撮影できます。

注意

- AFターゲットはメニューからも選択できますが、メニューから操作した場合は、ホームポジションは登録できません。

フォーカスロックを使う

被写体がAFターゲットから外れる構図や、オートフォーカスが苦手な被写体を撮影するときは、フォーカスロックが便利です。

1 ピントを合わせたい被写体にAFターゲットを合わせ、半押しします。

- 合焦マークが点灯していることを確認してください。

2 半押しした状態のまま、撮影したい構図を変えます。

- 半押ししている間、ピントは固定されます。
- シャッターボタンを半押ししている間、被写体との距離は変えないでください。

3 全押しして撮影します。

注意

- 明るさが不足している、霧などで被写体がはっきり見えないなど、被写体のコントラストが弱い場合はピントが合わないことがあります。

拡大枠AF

Qボタンを押すと拡大枠が表示され、シャッターボタンを半押しすると拡大枠の位置と大きさでS-AFの動作を行います。

1 Qボタンを押します。

- 拡大枠が表示されます。△▽◁▷で位置を変更できます。
- INFOボタンを押して、△▽で拡大倍率を変更できます。

2 シャッターボタンを半押ししてAF動作させます。

3 再度Qボタンを押すと拡大表示します。

- Qボタンを押すごとに拡大枠表示と拡大表示が切り換わります。どちらの状態でも撮影することができます。
- START/OKボタンを押すと元の画面に戻ります。

被写体の明るさを測定する（測光）

カメラが被写体の明るさを測定する方法を変更します。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽で測光を選択します。

2 ◁▷で項目を選択して(START/OK)ボタンを押します。

	デジタルESP測光	画面を324分割測光し、シーンや顔（顔検出ON時）などを考慮し最適な露出値を演算します。通常はこのモードをおすすめします。
	中央重点平均測光	画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。
	スポット測光	測光したいポイントにカメラを向け、狭い範囲（約2%）の明るさを測光するときに使います。測光した箇所が適正な明るさになります。
HI	スポット測光ハイライトコントロール	スポット測光したポイントがより明るくなります。明るいところを明るく表現します。
SH	スポット測光シャドウコントロール	スポット測光したポイントがより暗くなります。暗いところを暗く表現します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- 通常は、半押しで測光を開始し、半押ししている間は露出がロックされます。

露出を固定する（AEロック）

AEロック

Fnボタンまたは◉ボタンを押して露出だけを固定することができます。構図を変えながら、ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。

- **［Fnボタン機能］**（P. 72）、**［◉ボタン機能］**（P. 72）で、**Fn**ボタンまたは◉ボタンにAEL/AFLを設定します。

一度ボタンを押すと露出が固定されAELが表示されます。シャッターボタンを押して撮影します。

- AEロックを解除するためには、もう一度ボタンを押します。

こんなときは

- ボタンを押している間だけAEロックしたい：☞「AEL/AFL MEMO」（P. 72）
- 決まった測光方式でAEロックしたい：☞「AEL測光モード」（P. 75）

条件を少しずつ変化させて撮影する（ブラケット撮影）

1コマごとに自動的に露出、ホワイトバランス、フラッシュの発光量、ISO感度の設定を変えながら撮影する方法をブラケット撮影といいます。ブラケット撮影は**P**、**A**、**S**、**M**モードでのみ設定できます。

1 撮影メニュー２（P. 106）で、［ブラケット撮影］を選択します。

2 ブラケット撮影の種類を選択します。

- ブラケット撮影を設定すると、画面にBKTが表示されます。

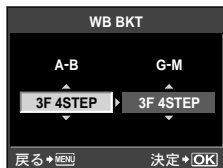
AE BKT（AEブラケット撮影）

1コマごとに露出を変えて撮影するAEブラケット撮影の設定を行います。補正量を0.3EV、0.7EV、1.0EVから選択します。単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、連写モードでは、シャッターボタンを全押し続けている間に、適正露出、–補正、+補正の順番で3コマを撮影します。

- ブラケット撮影中はBKTが緑色で表示されます。
- **P**モードでは、絞り値とシャッター速度、**A**および**M**モードではシャッター速度、**S**モードでは絞り値を制御して補正を行います。
- 露出補正を行っている場合、すでに補正されている値を中心としたAEブラケット撮影が行われます。
- **［露出ステップ］**（P. 75）を変更すると、補正量も変化します。

WB BKT（WBブラケット撮影）

1回の撮影で、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カメラの設定で撮影された画像、その画像から色合いを変更した画像の順番で記録されます。

- 補正する方向A–B（赤–青）、およびG–M（緑–赤紫）のそれぞれのステップを2ステップ、4ステップ、6ステップから選択します。
- ホワイトバランスの補正を行っている場合、すでに補正されている値を中心としたWBブラケット撮影が行われます。
- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと撮影できません。

FL BKT（FLブラケット撮影）

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影するフラッシュブラケット撮影の設定を行います。単写モードでは、シャッターボタンを全押しするごとに、連写モードでは、シャッターボタンを全押し続けている間に、適正発光量、–発光量、+発光量の順番で3コマを撮影します。

- ブラケット撮影中はBKTが緑色で表示されます。
- **［露出ステップ］**（P. 75）を変更すると、補正量も変化します。

ISO BKT（ISOブラケット撮影）

撮影時のシャッター速度と絞り値を固定したまま、1コマごとにISO感度を変えて撮影するISOブラケット撮影の設定を行います。補正量を0.3EV、0.7EV、1.0EVから選択します。1回の撮影で、ISO感度を設定したISO感度（オート設定時は適正ISO）–補正、+補正の順番で3コマを撮影します。

- **［ISO感度ステップ］**（P. 75）を変更しても、補正量は変化しません。
- **［ISOオート設定］**（P. 75）で設定した上限値とは関係なくブラケット撮影が行われます。

手ぶれを抑えて撮影する（手ぶれ補正）

被写体が暗い場面や、高倍率撮影などで起きやすい手ぶれを抑えることができます。

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽で手ぶれ補正を選択します。

2 ◁▷で項目を選択して㊫ボタンを押します。

OFF	手ぶれを補正しません。
I.S. 1	手ぶれを補正します。
I.S. 2	カメラの縦方向 の手ぶれだけを補正します。流し撮りをするときに使います。
I.S. 3	カメラの横方向 の手ぶれだけを補正します。カメラを縦に構えて流し撮りするときに使います。

■ 焦点距離の設定について

マイクロフォーサーズ／フォーサーズレンズ以外のレンズが装着された場合は設定された焦点距離情報を使って手ぶれ補正を行います。

1 手ぶれ補正設定中にINFOを押します。

2 ◁▷で焦点距離を設定し、㊫を押します。

- 8mm ～ 1000mmまでの焦点距離が設定可能です。☞「設定可能な焦点距離」（P. 102）
- レンズに記載の数値、またはその数値に一番近い値を選択してください。

注意

- 手ぶれが大きすぎるときやシャッター速度が極端に遅い場合、手ぶれが補正しきれないことがあります。このときは三脚を使用して撮影してください。
- 三脚使用時は**［手ぶれ補正］**を**［OFF］**に設定してください。
- 手ぶれ補正機能付きのレンズを使用している場合は、レンズまたはカメラのいずれかの手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- **［手ぶれ補正］**を**［I.S.1］**／**［I.S.2］**／**［I.S.3］**に設定している場合、電源を切ったときにカメラが振動します。これは手ぶれ補正機構の初期化動作で、この動作を行わないと、適正な補正効果が得られない場合があります。
- 手ぶれ補正が作動していると、作動音や振動を感じることがあります。
- 2秒を超えるシャッター速度では、手ぶれ補正は作動しません。
- カメラの内部温度が所定温度を超えると手ぶれ補正は停止し、液晶モニタの手ぶれ補正アイコンが赤く点灯します。点滅した場合は故障ですので、当社修理センターまたはサービスステーションにご相談ください。

複数の画像を重ね合わせて撮影する(多重露出撮影)

複数コマの画像を重ねて合成し、1つの画像として保存します。保存時に設定されている画質モードで保存されます。

1 撮影メニュー2(P. 106)で、**[多重露出]**を選択します。

2 多重露出撮影の設定を行います。

多重露出
コマ数 OFF
自動ゲイン補正 OFF
再生画+多重 OFF
戻る➔MENU 詳細➔▷ 決定➔OK

コマ数	**[2コマ]**に設定します。
自動ゲイン補正	**[ON]**に設定すると、各コマの明るさを1/2にしてから合成します。**[OFF]**に設定すると、各コマの明るさのままで合成します。
再生画+多重	**[ON]**に設定すると、選んだRAW形式の画像に重ねて多重露出撮影ができます。撮影回数は1回です。撮影した画像は別の画像として保存されます。

3 撮影します。

- 多重露出を設定すると液晶モニタに▣が表示されます。撮影を始めると▣が緑で表示されます。
- 🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像が取り消されます。
- 1コマ目を撮影すると液晶モニタに途中の合成画像が半透過で表示されるので、合成位置を確認しながら撮影できます。

こんなときは

- 3コマ以上撮影画像を合成したい:画像をRAW形式で保存し、繰り返し**[再生画+多重]**で多重露出撮影すると、3コマ以上のときは撮影画像の合成が可能です。
- RAW画像を合成したい:☞「画像合成」(P. 64)

注意

- 多重露出を設定すると、自動的に**[スリープ時間]**は**[OFF]**に設定されます。
- 他のカメラで撮影したRAW形式の画像は、撮影画像を合成できません。
- **[再生画+多重]**を**[ON]**に設定し、RAW形式の画像を選択するときに表示される画像は、撮影時の設定で現像されたものです。
- 撮影に関する設定は、多重露出撮影を解除してから行ってください。一部設定できない機能があります。
- 次の場合は1枚目以降の多重露出が自動的に解除されます。
  電源を切る/▶ボタンを押す/MENUボタンを押す/**P**/**A**/**S**/**M**以外の撮影モードにする/電池残量がなくなる/USBケーブル、AVケーブルおよびHDMIミニケーブルの挿入/液晶モニタと電子ビューファインダーとの表示切換
- 多重露出撮影の1コマ目の情報が、撮影情報として表示されます。

- **[再生画+多重]** でRAW形式の画像を選択するとき、RAW+JPEGで記録した画像はJPEG画像が表示されます。
- 多重露出撮影とブラケット撮影を併用する場合は、多重露出撮影の動作が優先されます。合成した画像を保存中、ブラケット撮影は初期状態にリセットされます。

画像の仕上がりを設定する（仕上がり）

画像の色調を、撮影目的に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。調整したパラメータは仕上がり項目ごとに記録されます。

1 撮影メニュー１（P. 106）で、**[仕上がり]**を選択します。

2 ◁▷で項目を選択して㊞ボタンを押します。

i-FINISH	撮影シーンに合った印象的な仕上がりになります。
VIVID	色鮮やかに仕上げます。
NATURAL	自然な色合いに仕上げます。
FLAT	素材性を重視した仕上がりになります。
PORTRAIT	肌色をきれいに仕上げます。
モノトーン	モノクロ調に仕上げます。
カスタム	仕上がり項目の1つを選んで各パラメータを設定し、登録します。

3 各項目でさらに▷を押すと、各項目のパラメータを調整できます。

<table>
<tr><th></th><th></th><th></th><th>1</th><th>2～5</th><th>M</th><th>C</th></tr>
<tr><td colspan="2">コントラスト</td><td>明暗の差</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャープネス</td><td>鮮鋭さ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">階調</td><td>画像の階調を調整します。</td><td rowspan="5">○</td><td rowspan="5">○</td><td rowspan="5">○</td><td rowspan="5">○</td></tr>
<tr><td></td><td>オート</td><td>画像を細かい領域にわけて部分的に明るさを補正します。黒つぶれ・白とびの起きやすい明暗さの大きい画像に有効です。</td></tr>
<tr><td></td><td>標準</td><td>通常は[標準]に設定してください。</td></tr>
<tr><td></td><td>ハイキー</td><td>明るい被写体に適した階調にします。</td></tr>
<tr><td></td><td>ローキー</td><td>暗い被写体に適した階調にします。</td></tr>
<tr><td colspan="2">彩度</td><td>色の鮮やかさ</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">効果
(i-FINISHのみ)</td><td>効果のかかり方の強弱を設定します。</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フィルター効果
(モノトーンのみ)</td><td>フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。</td><td rowspan="6">×</td><td rowspan="6">×</td><td rowspan="6">○</td><td rowspan="6">○</td></tr>
<tr><td></td><td>N:無し</td><td>通常の白黒画像になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>Ye:黄</td><td>自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>Or:オレンジ</td><td>青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>R:赤</td><td>青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。</td></tr>
<tr><td></td><td>G:緑</td><td>赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。</td></tr>
<tr><td colspan="2">調色
(モノトーンのみ)</td><td>白黒画像に色味をつけます。</td><td rowspan="7">×</td><td rowspan="7">×</td><td rowspan="7">○</td><td rowspan="7">○</td></tr>
<tr><td></td><td>N:無し</td><td>通常の白黒画像になります。</td></tr>
<tr><td></td><td>S:セピア</td><td>セピア</td></tr>
<tr><td></td><td>B:青</td><td>青味</td></tr>
<tr><td></td><td>P:紫</td><td>紫味</td></tr>
<tr><td></td><td>G:緑</td><td>緑味</td></tr>
</table>

注意

- **[標準]**以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

3 フラッシュ撮影

フラッシュスイッチをスライドして内蔵フラッシュをポップアップさせると発光可能になります。目的に応じていろいろなフラッシュ撮影が行えます。

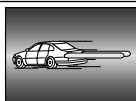
フラッシュを使って撮影する（フラッシュ撮影）

1 フラッシュをポップアップさせます。

2 ⚡ボタン（▷）を押して、フラッシュ発光モードを表示します。

3 ◁▷でフラッシュ発光モードを選択し、Ⓞボタンを押します。

- 撮影モードによってフラッシュ発光モードの種類と並びの順番は異なります。
  ☞「撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード」（P. 102）

AUTO	**オート発光**	暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
⚡	**強制発光**	フラッシュを必ず発光させます。
Ⓧ	**発光禁止**	フラッシュは発光しません。*1
◉/◉⚡	**赤目軽減発光**	人物の目が赤く写る現象を起こりにくくします。**S**、**M**モードでは強制発光になります。
⚡SLOW	**スローシンクロ（先幕シンクロ）**	背景が明るく撮れるように遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。
◉SLOW	**スローシンクロ（先幕シンクロ）+ 赤目軽減発光**	スローシンクロと赤目軽減発光を併用します。
⚡SLOW2/ 2nd CURTAIN	**スローシンクロ（後幕シンクロ）**	移動方向の後ろに流れた写真にするために、シャッターを閉じる直前で発光します。
⚡FULL	**マニュアル発光（FULL）*2**	フラッシュをフル発光させます。
⚡1/4	**マニュアル発光（1/4）*2**	フラッシュをフル発光の1/4の光量で発光させます。
⚡1/16	**マニュアル発光（1/16）*2**	フラッシュをフル発光の1/16の光量で発光させます。
⚡1/64	**マニュアル発光（1/64）*2**	フラッシュをフル発光の1/64の光量で発光させます。

*1 内蔵フラッシュ、外部専用フラッシュは発光しません。
*2 内蔵フラッシュのみ

4 シャッターボタンを全押しします。

注意

- **[◉/◉⚡（赤目軽減発光）]**では、最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- 撮影状況によっては、**[◉/◉⚡（赤目軽減発光）]**の効果が得られないことがあります。
- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/160秒より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。

フラッシュ発光量補正

フラッシュの発光量を**[+3]** ～ **[–3]**の範囲で調整できます。被写体が小さい、背景と離れているなど、被写体と背景との露出バランスを調整したいときに便利です。また、コントラスト(明暗の差)を意図的につけたいときにも有効です。

1 ライブコントロール(P. 20)を表示して、△▽でフラッシュ補正を選択します。

2 ◁▷で項目を選択し、Ⓞボタンを押します。

こんなときは

- フラッシュブラケット撮影がしたい：☞「FL BKT（FLブラケット撮影）」（P. 49）

注意

- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- **[⚡+☒連動]**が**[ON]**に設定されているときは、露出補正量に加算されます。
  ☞「⚡+☒連動」（P. 75）

専用フラッシュを使う

別売の専用通信フラッシュを使用し、フラッシュによる自動調光、スーパー FP発光、ワイヤレスフラッシュなど多彩なフラッシュ撮影を行えます。（P. 103）

市販のフラッシュを使う

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュをカメラのホットシューに接続して使用する場合は、次のことにご注意ください。

- カメラのホットシューのX端子に、約5V以上の電圧がかかる古いタイプの市販フラッシュを接続すると故障します。
- 弊社規格外の通信端子のあるフラッシュを接続すると故障する可能性があります。
- 撮影モードを**M**にして、シャッター速度を1/160以下、ISO感度を**[AUTO（オート）]**以外でお使いください。
- フラッシュで調光する場合は、フラッシュにカメラのISO感度と絞り値を設定する必要があります。フラッシュによる明るさを調整するには、いずれかをシフトします。
- レンズにあった照射角のフラッシュをお使いください。通常、照射角は35mmフィルムカメラ換算の焦点距離で表します。

4 ムービーの撮影と再生

◉（ムービーボタン）で音声付きハイビジョン画質のムービーを撮影することができます。☞「静止画を撮る／ムービーを撮る」（P. 12）
また、ムービーモードでは、**A**モードや**M**モードの効果を生かしたムービーの撮影が可能です。シャッターボタンでムービーを撮影するようにカスタマイズすることもできます。（P. 80）

注意

- ムービー撮影中は、露出補正や絞り値、シャッター速度などの設定変更はできません。
- ムービー撮影時に**[手ぶれ補正]**を使うと、画像が少し拡大されて記録されます。また、**[I.S. 2]**または**[I.S. 3]**を選択していても、**[I.S. 1]**の設定で動作します。
- 手ぶれが大きすぎると、補正しきれないときがあります。
- 手ぶれ補正機能付きのレンズを使用している場合は、レンズまたはカメラの手ぶれ補正機能をオフにしてください。
- ムービーモードで**[☻顔検出]**は使用できません。
- 1ファイルは2GBに制限されます。また、メディアによっては最長時間まで記録されずに、途中で撮影が終了する場合があります。
- カメラの内部が高温になると、保護機能が働き自動的に撮影を中止します。
- 画面に**「記録中」**と表示されている間は、次の撮影はできません。
- アートフィルターによっては、**[C-AF]**の動作が制限されます。
- ムービー撮影にはSDスピードクラス6 に対応したカードのご使用をおすすめします。

ムービー撮影の設定を変更する

ムービーに効果をつける

1 カスタムメニュー（P. 71）のタブで、[モード]を選択します。

2 項目を選択してを押します。

P	被写体の明るさに応じて、最適な絞り値を自動的に設定します。
A	絞り値を設定することで、背景の描写に変化がつけられます。◁▷で絞り値を設定します。
M	絞り値とシャッター速度を設定します。◁▷で絞り値を設定し、△▽でシャッター速度を設定します。設定可能なシャッター速度は、1/30～1/2000秒です。ISO感度は200～1600のマニュアル設定だけです。
ART1～ART6	アートフィルターの効果を使って撮影します。☞「アートフィルターを使う」（P. 16）

4 ムービーの撮影と再生

注意

- アートフィルターモードで撮影する場合は、表示される録画時間が実際の時間と異なる場合があります。**[ART5]**（ジオラマ）では高速再生となるため、撮影時間表示が再生時の時間経過に合わせた表示となり、時間の進みが遅くなります。

ムービーの画質モードを変更する

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽で画質モードの項目を選択します。

2 ◁▷でムービーの画質を選択してSTART/OKを押します。

HD	画像サイズが1280×720になります。ハイビジョン画質のムービーを撮影することができます。
SD	画像サイズが640×480になります。

ムービー録音を設定する

1 ライブコントロール（P. 20）を表示して、△▽でムービー録音の項目を選択します。

2 ◁▷でON/OFFを切り換えてSTART/OKを押します。

ISO AUTO
ムービー録音 ON
OFF ON
00:00

注意

- ムービー撮影中の録音では、レンズの駆動音やカメラの操作音が入ることがあります。気になるときは、**[AF方式]**を**[S-AF]**にして撮影したり、ボタンをなるべく押さないようにするなど、音の発生を抑えてください。
- **[ART5]**（ジオラマ）では、録音できません。

シャッターボタンでムービーを撮影する

通常は◉ボタンでムービー撮影をしますが、**Fn**や◉ボタンの両方を他の機能に割り当てているときはシャッターボタンでムービー撮影をします。

1 モードダイヤルを🎥にします。

2 シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせます。

- ピントが合うと合焦マークが点灯します。

🎥モード表示　　録画可能時間

4 ムービーの撮影と再生

3 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。

- ●RECが点灯し、ムービーと音声が同時に記録されます。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影を終了します。

撮影中赤く点灯　　録画時間

こんなときは

- 音声なしでムービー撮影したい：☞「ムービー録音を設定する」（P. 57）

ムービー撮影終了時に静止画を撮る

[ムービー +静止画撮影]を**[ON]**にすると、ムービー撮影の終了と同時に静止画を撮影します。ムービーだけでなく、静止画も残したいときに便利です。

1 カスタムメニュー（P. 71）のタブで、[ムービー +静止画撮影]を選択します。

2 [ON]を選択してを押します。

注意

- シャッターボタンでムービー撮影を行った場合のみ有効です。

ムービー再生

1 再生画面でムービーファイルを表示して、ボタンを押します。

2 △▽で[ムービープレイ]を選択して、ボタンを押すと、ムービーが再生されます。

- ムービーの再生中は次の操作が可能です。

START/OK	ムービーを一時停止／再開します。 • 一時停止中に△を押すと、先頭のフレーム、▽を押すと最後のフレームを表示します。◁▷を押すと、コマ戻し／コマ送りができます。ボタンを押し続けると連続でコマ戻し／コマ送りを行います。
◁/▷	ムービーの早送り、巻き戻しを行います。
△/▽	音量の調節ができます。

再生時間／録画時間

5 再生に使う機能

1コマ再生時の操作

1コマ再生では、以下の操作が可能です。撮影モードで▶ボタンを押すと、画像が1コマで再生されます。

- もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

◁/▷	前後の画像を表示します。
🗑	表示した画像を消去します。（P. 15） • 複数の画像を消去するときは「選択コマ消去」（P. 66）を、すべての画像を消去する「全コマ消去」（P. 66）をご覧ください。 1コマ消去 / 実 行 / 中 止 / 戻る MENU / 決定 OK
Q	Qボタンを押すとクローズアップ再生します。（P. 60） 2x
▦	▦ボタンを押すとインデックス再生します。（P. 60） 2010.02.01 12:30 21
INFO	画像の詳細情報を表示します。（P. 61）
O┰	画像をプロテクトします。（P. 65）
START OK	**［JPEG編集］**（P. 63）および**［RAW編集］**（P. 63）、**［録音］**（P. 65）、**［回転］**（P. 64）、**［スライドショー］**（P. 62）、**［画像合成］**（P. 64）、**［プリント予約］**（P. 82）などのメニューが表示されます。画像により表示されるメニューは異なります。 JPEG / JPEG編集 / 録音 / 回転 / スライドショー / プリント予約 / 戻る MENU / 決定 OK

クローズアップ再生

1コマ再生中にQボタンを押すごとに14倍まで拡大表示されます。

△/▽/◁/▷	クローズアップ位置を変更できます。
Q	ボタンを押すごとに14倍まで拡大表示されます。
⊞	ボタンを押すごとに拡大倍率を下げます。

インデックス再生／カレンダー再生

1コマ再生中に⊞を押すと、インデックス再生になります。液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。

⊞	⊞を押すごとに表示される枚数が4コマ、9コマ、25コマ、100コマに増えます。100コマインデックス再生のときに、さらに⊞を押すとカレンダー再生画面になります。表示設定が**[ON]**の種類だけが、表示されます。（P. 74）
Q	Qを押すごとに表示される枚数が100コマ、25コマ、9コマ、4コマに減ります。4コマインデックス再生のときに、さらにQを押すと1コマ再生画面になります。表示設定が**[ON]**の種類だけが、表示されます。（P. 74）
△/▽/◁/▷	再生するコマを選択します。
O-π	画像をプロテクトします。（P. 65）
START/OK	消去またはプロテクトするコマを複数選択したいときに、コマを選びSTART/OKを押すと✔が表示されます。（P. 66）

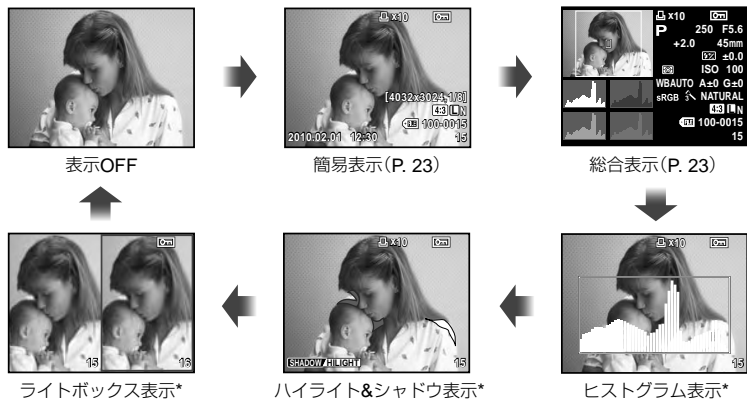
■ カレンダー再生画面

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示できます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。△▽◁▷で日付を選択し、Ⓞボタンを押すと、選択した日付の画像が1コマ再生されます。

情報表示

画像の詳細情報を表示することができます。INFOボタンを押すごとに次のように表示が切り換わります。

表示OFF　簡易表示（P. 23）　総合表示（P. 23）

ライトボックス表示*　ハイライト&シャドウ表示*　ヒストグラム表示*

* ［▦/INFO表示設定］（P. 74）で表示させることができます。

■ ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示します。

■ ハイライト&シャドウ表示

撮影した画像の露出オーバー（ハイライト）を赤色、露出アンダー（シャドウ）を青色で表示します。

■ ライトボックス表示

- 2枚の画像を並べて表示して比較できます。Ⓞボタンを押すと、左右の画像を切り換えることができます。カスタムメニューで**［▦/INFO表示設定］**の他に**［▶拡大モード］**（P. 74）を**［mode2］**に設定することが必要です。
- 表示中のコマが画面の左半分に、次のコマが右半分に再生中の拡大倍率で表示され、左の画像が基準画像になります。Ⓞボタンを押すと、右の画像が基準画像に切り換わり左側に表示されます。
- HDMIケーブルを接続している場合、ライトボックス表示はできません。

- Qを押すと基準画像が拡大表示されます。

△▽◁▷で選択コマの表示範囲をスクロールできます。

選択コマと基準コマの両方の表示範囲をスクロールできます。

左右で表示する選択コマの画像を切り換えられます。

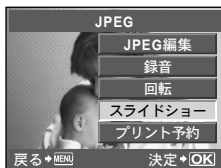
- 拡大表示中にINFOを押すと、△▽で左右の画像の拡大倍率を変更できます。INFOを押すと、元の画面に戻ります。

こんなときは

- **[▣/INFO表示設定]**で簡易表示以外の情報の表示/非表示を選択できます。(P. 74)

スライドショー

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。

1 再生画面でⓄボタンを押し、スライドショーを選択します。

2 スライドショーの設定をします。

スタート	スライドショーを開始します。表示している画像から、順に再生されます。
BGM	3種類のBGM、または**[OFF]**を設定します。
スライド	再生する画像の種類を設定します。
1コマ再生時間	次の画像に切り換わる間隔を2 ～ 10秒の間で設定します。
ムービー再生	ムービーを再生するときに、ムービー全編を再生する**[フル]**か、途中までの部分を再生する**[ショート]**を設定します。

3 [スタート]を選択してⓄボタンを押します。

- スライドショーが始まります。
- Ⓞボタンを押すとスライドショーが停止します。

スライドショー音量について

スライドショーの再生中に△▽を押すと、全体の音量が調節できます(カメラのスピーカーでの再生時のみ)。◁▷を押すと、画像やムービーに録音した音量とBGMのバランスを調節できます。

こんなときは

- スライドショーは再生メニューからも設定できます。（P. 106）

注意

- スライドショーを30分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

画像編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。

1 再生画面で編集する画像を表示し、Ⓞボタンを押します。

- RAW画像の場合は**［RAW編集］**、JPEG画像の場合は**［JPEG編集］**が表示されます。**［RAW+JPEG］**で記録した画像は、どちらのデータを編集するかを選択する画面が表示されます。

2 ［RAW編集］または［JPEG編集］を選択してⓄボタンを押します。

RAW編集	RAW画像をJPEG画像として保存します。保存時のカメラの設定で画像が処理されます。目的に合わせてあらかじめカメラの設定を変更しておいてください。
JPEG編集	次の編集が可能です。 **［階調オート］**：逆光時に暗く写った被写体を明るくします。 **［赤目補正］**：フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。 **［トリミング］**：Qまたは▦でトリミングサイズ、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。 決定→OK **［アスペクト］**：アスペクト比が4:3（基準）の画像のアスペクト比を**［3:2］**/**［16:9］**/**［6:6］**に変更します。アスペクト比変更後、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。 **［モノクロ作成］**：白黒に変換します。 **［セピア作成］**：セピア色に変換します。 **［鮮やかさ調整］**：画像の色をより鮮やかにします。画面で確認しながら鮮やかさを調整します。 **［リサイズ］**：画像サイズを1280 × 960、640 × 480、または320 × 240に変換します。アスペクト比が4:3（基準）以外の画像は、近い大きさの画像サイズに変換されます。 **［eポートレート］**：なめらかな肌に補正します。 顔が検出できないなど、画像によっては補正できない場合があります。

注意

- ムービーの編集はできません。
- 画像によっては赤目補正できないことがあります。
- 次の場合はJPEG編集できません。

RAWで記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像

- **[リサイズ]**では、撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。
- **[トリミング]** / **[アスペクト]**は、アスペクト比が4：3（基準）の画像のみ編集できます。

回転

撮影した画像を回転させることができます。

1 再生画面で画像を表示し、Ⓞボタンを押します。

2 [回転]を選択して、Ⓞボタンを押します。

3 △を押すたびに反時計回りに、また、▽を押すたびに時計回りに画像が回転します。

- Ⓞボタンを押して、設定を終了します。

注意

- 回転表示した画像はその状態でカードに記録されます。
- ムービーやプロテクトされている画像は回転できません。

5

再生に使う機能

画像合成

撮影したRAW画像を最大3コマまで重ねて合成し、別の画像として保存します。
保存時の画質モードで保存されます。

1 再生画面でRAW画像を表示し、Ⓞボタンを押して**[画像合成]**を選択します。

2 合成するコマ数を選択してⓄボタンを押します。

3 △▽◁▷で合成するRAW画像を選択します。

4 手順2で選択したコマ数を選択すると、画像合成画面が表示されます。

5 合成する各画像のゲインを選択します。

- ◁▷で画像を選択し、△▽で数値を変更します。
- ゲインは0.1 ～ 2.0まで選択できます。表示画像を見ながらゲインを調節してください。

6 Ⓞボタンを押すと、確認画面が表示されます。**[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。

こんなときは

- 画像をRAW形式で保存し、繰り返し**[画像合成]**を行うと、4コマ以上の画像合成が可能です。

注意

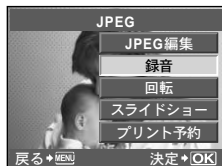
- 画像モードを**[RAW]**に設定している場合、画像合成した画像の画質モードは**[LN+RAW]**で保存されます。

音声録音

静止画に音声を録音します(最長30秒)。

1 再生画面で音声を録音する画像を表示し、OKボタンを押します。

2 [録音]を選択して、OKボタンを押します。

- 録音を中止する場合は、**[中止]**を選択してください。

3 [録音スタート]を選択してOKボタンを押すと、録音を開始します。

- 途中で録音を中止するときはOKを押します。

4 OKボタンを押して、録音を終了します。

- 音声を録音した画像には[♪]が表示されます。
- 録音した音声を消去する場合は、手順2で**[消去]**を選択してください。

注意

- プロテクトされた画像には録音できません。

メモ

音声録音は再生メニューからも設定できます。

画像のプロテクト

残しておきたい大切な画像には、プロテクト(保護)を設定できます。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。1コマ再生、またはインデックス再生画面でプロテクトを設定したい画像を表示し、O-nボタンを押します。

- プロテクトされた画像には[O-n](プロテクトマーク)が表示されます。
- 再度O-nボタンを押すと、プロテクトが解除されます。

注意

- カードを初期化した場合は、プロテクトされている画像も消去されます。

選択コマプロテクト

インデックス再生で、画像を複数選択して一度にプロテクトをかけることができます。

1 △▽◁▷で画像を選択して、Ⓞボタンを押します。

- ✔が表示されます。
- 選択を取り消すには、もう一度Ⓞボタンを押します。

2 O‐πボタンを押します。

全プロテクト解除

プロテクトされている画像を一度に解除できます。

1 ▶再生メニュー（P. 106）で**[全プロテクト解除]**を選択します。

2 **[実行]**を選択し、Ⓞボタンを押します。

画像の消去

選択コマ消去

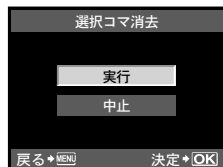
インデックス再生で、画像を複数選択して一度に消去することができます。

1 △▽◁▷で画像を選択して、Ⓞボタンを押します。

- ✔が表示されます。
- 選択を取り消すには、もう一度Ⓞボタンを押します。

2 🗑ボタンを押します。

3 **[実行]**を選択して、Ⓞボタンを押します。

- 選択した画像が消去されます。

全コマ消去

カード内の画像すべてを消去します。

1 撮影メニュー１（P. 106）で、**[カードセットアップ]**を選択します。

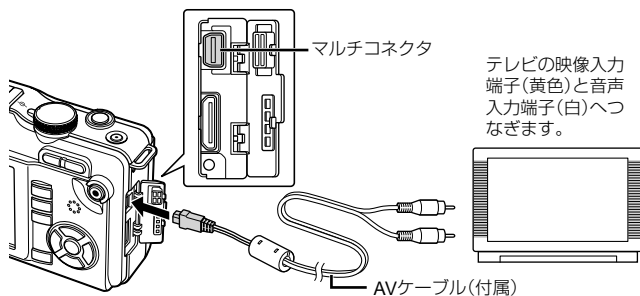
2 **[全コマ消去]**を選択して、Ⓞボタンを押します。

3 **[実行]**を選択して、Ⓞボタンを押します。

- カード内のすべての画像が消去されます。

テレビ再生

付属のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。市販のHDMIミニケーブルを使ってハイビジョン対応のテレビに接続すると、高画質な画像をテレビで観ることができます。

■ AVケーブルで接続する場合

1 カメラで、接続するテレビの映像信号方式と同じ方式を選びます(**[NTSC]** / **[PAL]**)。

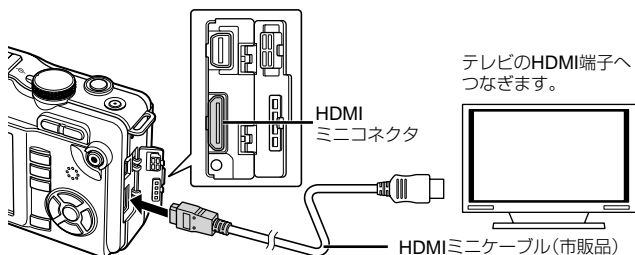
- ☞「ビデオ出力」(P. 73)

2 テレビとカメラを接続します。

3 テレビの電源を入れて、「入力」を「ビデオ」(カメラを接続した入力端子)に切り換えます。

注意

- AVケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- AVケーブルで接続した場合、▶ボタンを押してください。
- テレビの入力切り換えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。

■ HDMIミニケーブルで接続する場合

1 テレビのHDMI端子にHDMIミニケーブルを接続します。

2 カメラのHDMI端子にHDMIミニケーブルを接続します。

3 テレビの電源を入れて、「入力」を「**HDMI入力**」に切り換えます。

4 カメラの電源を入れます。

注意

- テレビの入力切り換えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- カメラ側はHDMI ミニコネクタ、テレビ側はテレビのHDMIコネクタに合ったHDMIミニケーブルをご使用ください。
- AVケーブルとHDMI ミニケーブルの両方がカメラとテレビに接続されている場合は、HDMIが優先されます。
- テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。
- HDMIミニケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選ぶことができます。☞「HDMI」（P. 73）
- HDMIミニケーブルの接続中は撮影できません。
- 他のHDMI出力機器と接続しないでください。故障の原因となります。
- パソコンやプリンタとのUSB接続中は、HDMI出力は行われません。

テレビのリモコンを使う

HDMIによるコントロールに対応したテレビに接続すると、テレビのリモコンで操作することができます。

1 カスタムメニュー（P. 71）のタブで[**HDMI**]を選択します。

2 [**HDMIコントロール**]を選択し、[**ON**]に設定します。

3 テレビのリモコンで操作します。

- テレビに表示された操作ガイドにしたがって操作できます。
- 1コマ再生のときに、リモコンの「**赤**」ボタンで情報表示の切り換え、「**緑**」ボタンでインデックス表示への切り換えができます。
- テレビによっては使用できない機能が表示される場合があります。

6 カメラの基本的な設定をする

セットアップメニュー

セットアップメニューでは、カメラの基本的な機能を設定します。
メニューの操作方法は、「メニューを使う」(P. 21)をご覧ください。

メニュー項目	説明	☞
日時設定	日時を設定します。	P. 7
(言語切り換え)	液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを、日本語以外の言語に設定できます。	—
モニタ調整	液晶モニタの明るさと色温度を調整します。色温度の調整は再生時のモニタ表示に適用されます。◁▷で(色温度)と(明るさ)を切り換え、△▽で**[+7]**～**[–7]**の範囲で調整します。 モニタ調整 −5 +2 戻る MENU 決定 OK 電子ビューファインダーを調整するには、「EVF調整」(P. 74)をご覧ください。	—
撮影確認	撮影後に画像を自動的に表示するかどうかを設定します。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。撮影確認中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。 **[1秒]**～**[20秒]**:画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。 **[OFF]**:記録中の画像は表示されません。 **[AUTO▶]**:記録中の画像を表示し、そのまま再生モードに切り換わります。画像を確認した後、消去したいときに便利です。	—
メニュー表示	カスタムメニューを表示するかどうかを設定します。	P. 71
バージョン	カメラや接続しているアクセサリーのファームウェアバージョンを表示します。お問い合わせいただくときやソフトウェアをダウンロードする場合に確認できます。	—

設定のリセット

このカメラでは、**P**/**A**/**S**/**M**モードで変更した設定は、電源を切ってもリセットされません。カメラを出荷時の設定に戻すには**[リセット]**を実行します。**[リセット1]** / **[リセット2]**にあらかじめリセット内容を登録しておくこともできます。**[リセット1]** / **[リセット2]**には、登録時のカメラの設定内容が登録されます。登録される機能については、「マイモード／カスタムリセット設定で登録可能な機能」(P. 104)をご覧ください。

[リセット1] / [リセット2]を登録する

1 撮影メニュー1(P. 106)で、**[カスタムリセット設定]**を選択します。

2 登録先(**[リセット1]**または**[リセット2]**)を選択し、▷を押します。

- すでに登録している場合、**[リセット1]** / **[リセット2]**に**[登録]**と表示されます。もう一度**[登録]**を選択すると、登録内容が上書きされます。
- 登録を解除する場合は**[クリア]**を選択します。

3 **[登録]**を選択し、OKボタンを押します。

リセット操作

出荷時の設定に戻します。または**[リセット1]**、**[リセット2]**の登録内容にリセットします。

1 撮影メニュー1(P. 106)で、**[カスタムリセット設定]**を選択します。

2 **[リセット]** / **[リセット1]** / **[リセット2]**のいずれかを選択した状態でOKボタンを押します。

- **[リセット]**：カメラを出荷時の設定に戻します。初期設定は「メニュー一覧」(P. 106)をご覧ください。
- **[リセット1]** / **[リセット2]**：登録した内容にリセットします。

3 △▽で**[実行]**を選択し、OKボタンを押します。

注意

- 以下の機能は**[リセット]**を行っても、ご購入時の初期設定に戻りません。初期設定は「メニュー一覧」(P. 106)で確認できます。
  リセット1、リセット2(カスタムリセット) ／仕上がり／日時設定／ ／モニタ調整の色温度／マイモード設定／ビデオ出力／ ISOオート有効／ WBモード／ファイルネーム編集／ dpi設定／露出基準調整／ 警告レベル

6 カメラの基本的な設定をする

7 カメラをカスタマイズする

カスタムメニュー

カスタムメニューは、撮影機能をカスタマイズする場合に使用します。

■ カスタムメニューの機能と分類

カスタムメニューは、関連する10種類の機能に分類されています。

A	AF/MF	(P. 72)
B	ボタン	(P. 72)
C	レリーズ	(P. 73)
D	表示／音／接続	(P. 73)
E	露出／測光／ ISO	(P. 75)

F	フラッシュ	(P. 75)
G	画質／色／ WB	(P. 76)
H	記録／消去	(P. 77)
I	動画	(P. 78)
J	その他	(P. 78)

■ カスタムメニューを使う前に

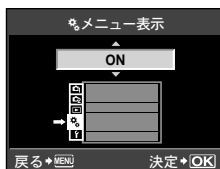
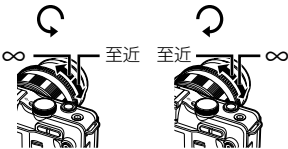
カスタムメニューの設定を変更するには、セットアップメニューの[メニュー表示]を[ON]にして、メニュー画面に[] (カスタムメニュー)タブを表示させせます。

1 MENUボタンを押し、メニューを表示させせます。

2 △▽でセットアップメニュー (P. 69)を選択し、▷を押します。

3 △▽で[メニュー表示]を選択し、▷を押します。

4 △▽で[ON]を選択して、ボタンを押します。

- []タブが表示されます。

カスタムメニュー一覧

A AF/MF

MENU ➜ ✲ ➜ A

メニュー項目	説明	☞
AF方式	AFの方式を選択できます。	P. 44
AFターゲット選択	AFターゲットモードを選択します。	P. 45
レンズリセット	[ON]に設定すると、カメラの電源をオフにしたときに、レンズのフォーカス位置をリセット(無限遠)します。	—
BULB中MF	マニュアルフォーカス(MF)で露光中は、ピントが固定されますが、[ON]に設定すると、フォーカスリングを回してピントを変えることができます。	—
フォーカスリング	フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り換えることができます。 ∞ 至近 至近 ∞	—
MFアシスト	[ON]に設定すると、マニュアルフォーカス時にフォーカスリングを回したとき、自動的に画像を拡大表示します。	—
[···]HOME登録	ホームポジションとして使うAFターゲットの位置を登録します。ホームポジションが登録中の場合、AFターゲット選択の画面でHPが表示されます。	—

B ボタン

MENU ➜ ✲ ➜ B

メニュー項目	説明	☞
AEL/AFLモード	Fnボタンまたは◉(ムービーボタン)にピント合わせやAEロックの機能を設定します。	P. 79
AEL/AFL MEMO	[ON]に設定すると、Fnボタンまたは◉(ムービーボタン)を押した後に放しても、AEロックを保持します。もう一度押すと、AEロックが解除されます。	—
Fnボタン機能	Fnボタンまたは◉(ムービーボタン)に次の機能を登録できます。 フェイス&バック／プレビュー／ワンタッチWB／[···]HOME／MF切換／RAW ／試し撮り撮影／マイモード撮影／ / ／AEL/AFL／◉REC／バックライト	P. 80
◉ボタン機能		

7

カメラをカスタマイズする

B ボタン

MENU ➜ ✲ ➜ B

メニュー項目	説明	☞
マイモード設定	Fnボタンに[マイモード撮影](P. 80)を登録しておくことで、Fnボタンを押している間、よく使用する機能の設定で撮影ができます。マイモードに登録できる機能については、P. 104をご覧ください。 **マイモードを登録する** 1) [マイモード1]または[マイモード2]を選択し、▷を押します。 2) [登録]を選択し、OKボタンを押します。 **マイモードを使用する** 1) [マイモード1]または[マイモード2]を選択し、OKボタンを押します。 2) [実行]を選択し、OKボタンを押します。 • 使用するマイモードに設定されます。 • 撮影するときはFnボタンを押しながらシャッターボタンを押します。	—
ボタンON保持時間	☒、⚡、□ျ◌ボタンを押して、指を離しても、押した状態を保持することができます。[3秒]、[5秒]、[8秒]を選択すると、それぞれの秒数保持できます。[HOLD]を選択すると、もう一度ボタンを押すまで、押した状態を保持します。	—

C レリーズ

MENU ➜ ✲ ➜ C

メニュー項目	説明	☞
レリーズ優先S	[ON]に設定すると、ピントが合わなくてもシャッターを切ることができるようになります。S-AFモード(P. 44)、C-AFモード(P. 44)それぞれのAF方式で個別に設定できます。	—
レリーズ優先C		

D 表示／音／接続

MENU ➜ ✲ ➜ D

メニュー項目	説明	☞
HDMI	HDMIミニケーブルでテレビに接続するときのデジタルビデオ信号形式を選択します。[1080i優先]、[720p優先]では、それぞれ1080i、720pを優先してHDMI出力されます。[480p/576p]では、480p/576p形式でHDMI出力されますが、[ビデオ出力]が[PAL]設定時は576pで再生します。テレビの入力設定に合わせて選択してください。	P. 67
ビデオ出力	テレビの映像信号に合わせて、[NTSC]または[PAL]を選択します。日本国内でお使いの場合は、[NTSC]を選択してください。	P. 67

メニュー項目	説明	☞
スリープ時間	設定した時間カメラを何も操作しないと、スリープモード(待機状態)になり、動作を停止し、電池の消費を抑えます。**[OFF]**に設定すると、スリープモードには入りません。スリープモードは、シャッターボタンなどのボタンを押すと解除されます。	—
LVブースト	**[ON]**にすると、カメラが明るさを自動的に調整して液晶モニタに表示します。露出補正を調整しても、液晶モニタには反映されません。	—
顔検出	**[ON]**に設定すると、人物の顔を検出して自動でピント合わせを行います。再生時に顔を検出すると、自動的にクローズアップ再生を行います。	P. 32
/INFO表示設定	**[▶INFO]**：再生時にINFOボタンを押して表示される情報画面の表示／非表示を、設定できます。 **[LV-INFO]**：ライブビュー時にINFOボタンを押して表示される情報画面の表示/非表示を選択できます。また、**[表示罫線選択]**を選択して▷ボタンを押すと、撮影時に使用する罫線を**[方眼]**、**[黄金分割]**、**[目盛]**、**[対角線]**の中から選択できます。 **[表示]**：再生時にボタンを押したときに表示されるインデックス画面とカレンダー画面の表示/非表示を設定できます。	P. 33、60
CONTROL表示	**[iAUTO]**：モードダイヤルをiAUTOにしたときの、ライブガイド(P. 18)／ライブコントロール(P. 20)／スーパーコンパネ(P. 81)の表示／非表示を設定できます。 **[P/A/S/M]**：モードダイヤルを**P**/**A**/**S**/**M**にしたときの、ライブコントロール(P. 20)／スーパーコンパネ(P. 81)の表示／非表示を設定できます。 **[ART/SCN]**：モードダイヤルをART/SCNにしたときの、ライブコントロール(P. 20)／スーパーコンパネ(P. 81)の表示／非表示を設定できます。	—
ヒストグラム警告設定	**[ハイライト表示]**：再生画面でハイライト&シャドウ表示にしたときの、ハイライト(露出オーバー)部分を赤色で警告表示する輝度の範囲を設定します。 **[シャドウ表示]**：再生画面でハイライト&シャドウ表示にしたときの、シャドウ(露出アンダー)部分を青色で警告表示する輝度の範囲を設定します。	P. 61
EVF調整	**[色温度]**：電子ビューファインダーの色温度を調整します。 **[明るさ]**：電子ビューファインダーの明るさを調整します。	P. 100
バックライト時間	バックライトの点灯時間を設定できます。**[HOLD]**を選択すると、常時点灯します。	—
モードガイド表示	**[ON]**にすると、モードダイヤルを切り換えるたびに、選択したモードについてのガイドが表示されます。	P. 10
▶拡大モード	**[mode1]**：Qボタンを押すごとに、画像が拡大表示され(最大14倍)、ボタンを押すごとに縮小表示されます。 **[mode2]**：Qボタンを押すと所定倍率の拡大枠が表示されます。さらにQボタンを押すと画像が拡大されます。	P. 14、60

D 表示／音／接続　MENU ➜ ✿ ➜ D

メニュー項目	説明	☞
電子音	**[OFF]**に設定すると、シャッターボタンを押してピントが合ったときのピピッという音を鳴らさないようにできます。	—
音量	スピーカーの音量を調節できます。	P. 58、62
USB接続モード	カメラをパソコンやプリンタに接続するときの方式を選択します。**[オート]**では機器に接続するたびにメニューが表示されます。	P. 84、87

E 露出／測光／ISO

MENU ➜ ✿ ➜ E

メニュー項目	説明	☞
露出ステップ	シャッター速度、絞り値、露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り換えます。	P. 40、48-49
測光	撮影するシーンに応じて測光方式を変更できます。中央重点、スポットでは測光範囲の目安となる枠線が表示されます。	P. 47
AEL測光モード	**Fn**ボタンまたは◉（ムービーボタン）を押して露出を固定するときの測光方式を設定します。**[オート]**を選択すると、**[測光]**で選択されているモードで測光します。	P. 80
ISO感度	ISO感度を設定します。	P. 41
ISO感度ステップ	ISO感度の補正ステップを設定します。	P. 41
ISOオート設定	ISO感度を**[オート]**に設定したときの上限値と基準値を設定します。 **[上限値]**：ISO感度の上限を設定します。 **[基準値]**：通常使用するISO感度を設定します。	P. 41
ISOオート有効	ISO感度の**[オート]**が有効になる撮影モードを設定します。 **[P/A/S]**：**M**モード以外の撮影モードで有効になります。**M**モードでは、ISO200に固定されます。 **[ALL]**：すべての撮影モードで有効になります。	P. 41
BULBリミッター	バルブ撮影の最長時間を設定します。	P. 39
低振動モード[♦]	シャッターボタンを全押しした後、シャッターが切れるまでの時間を設定します。カメラぶれを抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影などの場面で使います。低振動モードは連写（P. 30）やセルフタイマー撮影（P. 30）にも有効です。	—

F フラッシュ

MENU ➜ ✿ ➜ F

メニュー項目	説明	☞
⚡同調速度	フラッシュ発光時のシャッター速度を設定できます。	P. 102
⚡低速制限	フラッシュ発光時の低速側のシャッター速度の制限値を設定できます。	P. 102
⚡±+±連動	**[ON]**に設定すると、露出補正量に加算してフラッシュ補正が行われます。	P. 40、55

画質／色／WB

メニュー項目	説明	☞
長秒時ノイズ低減	長時間露光時に発生するノイズを低減します。 **[オート]**：シャッター速度が遅くなった場合に、長秒時ノイズの低減処理を行います。 **[ON]**：常にノイズ低減処理が行われます。 **[OFF]**：ノイズ低減処理を行いません。 • 長秒時ノイズ低減を行うと、約2倍の撮影時間がかかります。 • 連写設定時は自動的に**[OFF]**になります。 • 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。	P. 39
高感度ノイズ低減	高感度撮影時に発生するノイズの処理レベルを選択できます。	—
WBモード	ホワイトバランスのモードを選択します。	P. 42
全WBモード補正	**[ALL SET]**：**[CWB]**以外のすべてのWBモードで同じ補正値を適用します。 **[ALL CLEAR]**：**[CWB]**以外のすべてのホワイトバランス補正値を0にします。	P. 42
カラー設定	撮影した画像をモニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。	—
シェーディング補正	**[ON]**に設定すると、レンズの特性による画面周辺の暗さを補正し、明るくします。特に、広角レンズなどを使用する場合に効果的です。 • テレコンバーターやエクステンションチューブを装着しているときは補正されません。 • 高いISO感度では、画面周辺のノイズが目立つ場合があります。	—
画質設定	JPEGの画質モードを変更できます。3種類の画像サイズと4種類の圧縮率の組み合わせから選択します。画像サイズM、Sはピクセルサイズ(P. 77)も設定可能です。 **JPEGの画質モードを登録する** **1)** ◁▷で◀::-1～◀::-4の画像サイズと圧縮率を選択し、△▽で値を変更します。 **2)** Ⓞを押すと設定されます。 [画面：画質設定 ◀::1 L SF / ◀::2 M F / ◀::3 S N / ◀::4 S SF　ピクセルサイズ　Large　戻る→MENU　決定→OK] 画像サイズ　圧縮率	P. 31

7 カメラをカスタマイズする

メニュー項目	説明	☞
ピクセルサイズ	画像サイズM、Sのピクセルサイズを設定できます。 **ピクセルサイズを設定する** **1)** ✲カスタムメニュー（P. 71）のGタブで**[ピクセルサイズ]**を選択します。 **2)** MまたはSを選択して、▷を押します。 ピクセルサイズ / Middle 2560x1920 / Small 1280x960 / 戻る➜MENU 詳細➜▷ 決定➜OK **3)** ピクセルサイズを変更して、OKを押すと設定が確定します。 Middle / 3200x2400 / 2560x1920 / 1600x1200 / 戻る➜MENU 決定➜OK	P. 31

H 記録／消去

メニュー項目	説明	☞
ワンプッシュ消去	**[ON]**に設定すると、再生画面で🗑ボタンを押したとき、すぐに画像が消去されます。	P. 15
RAW+JPEG消去	**[1コマ消去]**（P. 15）を行う場合に、RAW+JPEGで記録した画像の消去方法を設定します。 **[JPEG]**：JPEG画像のみ消去します。 **[RAW]**：RAW画像のみ消去します。 **[RAW+JPEG]**：RAW画像とJPEG画像の両方を消去します。 • **[全コマ消去]**（P. 66）や**[選択コマ消去]**（P. 66）の場合は、常にRAW画像とJPEG画像の両方が消去されます。	P. 31
ファイルネーム	**[オート]**：カードを入れ換えても、ファイルNo.は通し番号で付けられます。カード内に重複するファイルNo.がある場合は、最も大きなファイルNo.に続いた番号が付けられます。 **[リセット]**：新しいカードを入れると、フォルダNo.は100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、最も大きなファイルNo.に続いた番号が付けられます。	—
ファイルネーム編集	ファイルネームを編集できます。	—

記録／消去

MENU ➔ ⚙ ➔ H

メニュー項目	説明	☞
実行優先設定	カーソルの初期位置を**[実行]**または**[中止]**にするかを選択できます。	—
dpi設定	プリントするときの解像度を設定します。 **[オート]**：画像サイズに合わせて自動的に設定されます。 **[カスタム]**：任意の数値を設定できます。▷を押すと、設定画面が表示されます。	—

動画

MENU ➔ ⚙ ➔ I

メニュー項目	説明	☞
モード	ムービー撮影時のモードを選択できます。	P. 56
ムービー +静止画撮影	**[ON]**に設定すると、ムービー撮影終了の操作で静止画を撮影します。	P. 58
ムービー録音	**[OFF]**を選択すると、ムービー撮影中に音声を録音しないように設定できます。	P. 57

その他

MENU ➔ ⚙ ➔ J

メニュー項目	説明	☞
ピクセルマッピング	撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。	P. 94
露出基準調整	適正露出の基準値を測光方式ごとに調整できます。 • 露出補正の範囲は±1/3EVです。露出基準値を調整すると、調整した方向の範囲が狭くなります。 • 露出基準値の調整量は撮影画面では確認できません。通常の露出補正を目的とする場合は、露出補正（P. 40）を行ってください。	—
警告レベル	電池の残量が少ないことを示す点灯のタイミングを設定できます。 • が点滅する場合は、電池を充電してください。	P. 6

■ AEL/AFLモード

MENU ➜ ⚙ ➜ B ➜ [AEL/AFLモード]

[Fnボタン機能] (P. 80)または[◉ボタン機能] (P. 80)に[AEL/AFLモード]を割り当てると、シャッターボタンのかわりに、Fnボタンまたは◉(ムービーボタン)を押してオートフォーカス動作や測光を行うことができます。シャッターボタンを押したときの動作と組み合わせてボタンの機能を選択できます。それぞれのフォーカスモードで[mode1] ~ [mode4]を選択します([mode4]はC-AFモードのときのみ選択できます)。

モード		シャッターボタンの役割				Fnボタンまたは◉(ムービーボタン)の役割	
		半押しのとき		全押しのとき		押している間	
		ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
S-AF	mode1	S-AF動作	固定	–	–	–	固定
	mode2	S-AF動作	–	–	固定	–	固定
	mode3	–	固定	–	–	S-AF動作	–
C-AF	mode1	C-AF開始	固定	固定	–	–	固定
	mode2	C-AF開始	–	固定	固定	–	固定
	mode3	–	固定	固定	–	C-AF開始	–
	mode4	–	–	固定	固定	C-AF開始	–
MF	mode1	–	固定	–	–	–	固定
	mode2	–	–	–	固定	–	固定
	mode3	–	固定	–	–	S-AF動作	–

■ Fnボタン機能、◉ボタン機能

MENU ➔ ⚙ ➔ B ➔ [Fnボタン機能] / [◉ボタン機能]

Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）にそれぞれ異なる以下の機能を登録することができます。

フェイス&バック	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、顔検出優先のAFターゲットモード、ESP測光、階調オートモードになり、再度押すと**[OFF]**になります（P. 32、74）。
プレビュー（電子式）	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押している間、設定された絞り値まで絞り込みます（P. 37）。
ワンタッチWB	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、ホワイトバランスの値を取得します（P. 43）。
[···]HOME	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、**[[···]HOME登録]**（P. 72）で登録したAFのホームポジションに切り換わります。ホームポジションのAFにはHPマークが表示されます。再度押すと、AFターゲットモードに戻ります。ホームポジションに切り換えた状態で電源をOFFにすると、ホームポジションに切り換える前のAFターゲット位置はリセットされます。
MF切換	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、AF方式が**[MF]**に切り換わります。再度押すと、元のAF方式に切り換わります。
RAW	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、JPEG撮影時の画質がRAW+JPEGに、RAW+JPEGはJPEGに切り換わります。
試し撮り撮影	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押しながらシャッターボタンを押すと、画像を記録せずに液晶モニタに表示します。
マイモード撮影	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押している間、**[マイモード設定]**（P. 73）で登録した内容で撮影します。
/	防水プロテクタを装着しているときに、Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すことで、とを切り換えることができます。
AEL/AFL	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、露出とピントが固定されます。
◉REC	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、ムービーを撮影できます。Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）にムービー撮影が設定されていないときは、シャッターボタンでムービーを撮影します。
バックライト	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）を押すと、液晶モニタが消灯します。光学ビューファインダーで撮影するときに便利です。再度押すと、液晶モニタが点灯します。
OFF	Fnボタンまたは◉（ムービーボタン）に機能を割り当てません。

スーパーコンパネを使う

撮影の設定状態と設定が一覧表示される下の画面をスーパーコンパネと呼びます。スーパーコンパネを使うには、**[📷CONTROL表示]**（P. 74）で**[スーパーコンパネ]**を**[ON]**に設定します。撮影モードでⓀボタンを押すと、ライブコントロールまたはスーパーコンパネなどの設定画面が表示され、INFOボタンを押すたびに、設定画面が切り換わります。

■ 使用可能な設定機能

① 現在選択している機能
② ISO感度 .... P. 41
③ 連写／セルフタイマー .... P. 30
④ フラッシュモード .... P. 54
⑤ フラッシュ補正値 .... P. 55
⑥ ホワイトバランス .... P. 41
ホワイトバランス補正 .... P. 42
⑦ 仕上がり .... P. 52
⑧ シャープネス .... P. 53
コントラスト .... P. 53
彩度 .... P. 53
階調 .... P. 53
フィルター効果 .... P. 53
調色 .... P. 53
⑨ カラー設定 .... P. 76
⑩ 顔検出 .... P. 32, 74
⑪ 測光方式 .... P. 47
⑫ アスペクト比 .... P. 32
⑬ 画質モード .... P. 31
⑭ AF方式 .... P. 44
AFターゲット .... P. 45
⑮ 手ぶれ補正 .... P. 50

注意

- ムービー撮影モードでは表示されません。

1 スーパーコンパネを表示して、△▽◁▷でカーソルを設定したい機能に移動してⓀを押します。

2 ◁▷で設定を選択して、Ⓚを押します。

- 必要に応じて、手順1、2を繰り返します。
- 数秒間操作をしないと、その状態で設定が確定します。

3 シャッターを半押しして撮影モードに戻ります。

7 カメラをカスタマイズする

プリント予約（DPOF）

プリントしたい画像や枚数などをあらかじめ指定しておくと、その情報がカードに保存されます。プリント予約した画像は、DPOF対応のプリントショップでプリントしたり、DPOF対応プリンタに直接接続してプリントできます。プリント予約にはカードが必要です。

注意

- 他の機器で予約した内容を、このカメラで変更することはできません。また、このカメラで新たに予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- プリンタまたはプリントショップによっては、一部機能が制限されることがあります。
- RAWデータおよびムービーは、プリント予約できません。
- プリント予約をせずにプリントショップへ依頼される場合は、プリントする画像をファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

DPOFとは

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する規格です。画像をプリントサービスや専用プリンタで自動的にプリントするための情報を記録できます。

プリント予約する

1 画像を再生中に、Ⓞボタンを押して［プリント予約］を選択します。

2 ［1コマ予約］または［全コマ予約］を選択し、Ⓞボタンを押します。

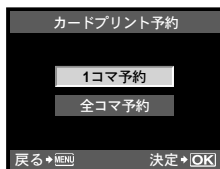
3 プリント予約する。

1コマ予約の場合

◁▷を押してプリント予約したいコマを選択し、△▽を押してプリントする枚数を設定します。

- 複数の画像をプリント予約する場合は、この手順を繰り返します。

全コマ予約の場合

［全コマ予約］を選択し、Ⓞボタンを押します。

4 プリント予約が終わったらⓄボタンを押します。

5 日時の種類を選択し、START/OKボタンを押します。

無し	画像のみプリントされます。
日付	画像と撮影年月日がプリントされます。
時刻	画像と撮影時刻がプリントされます。

6 [予約する]を選択し、START/OKボタンを押します。

プリント予約を解除する

すべてのプリント予約を解除する方法と、選択した画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 画像を再生中に、START/OK**ボタンを押して[プリント予約]**を選択します。

2 **[1コマ予約]**を選択し、START/OKボタンを押します。

3 **[解除しない]**を選択し、START/OKボタンを押します。

- すべてのプリント予約を解除する場合は、[解除する]を選択して、START/OKを押します。

4 ◁▷を押してプリント予約を解除したいコマを選択し、▽でプリント枚数を0に設定します。

5 プリント予約の解除が終わったら、START/OKボタンを押します。

6 日時の種類を選択し、START/OKボタンを押します。

- プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

7 **[予約する]**を選択し、START/OKボタンを押します。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（P. 85）で**[凸標準設定]**を選択すると、この設定にしたがってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

8 撮影した画像をプリントする

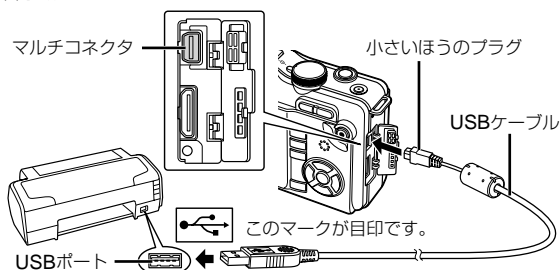
注意

- プリントを始める際は、充電した電池をご使用ください。
- RAWデータで記録された画像は、プリントできません。
- ムービー画像はプリントできません。
- USBケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード(待機状態)になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、カメラに付属のUSBケーブルで、カメラのマルチコネクタとプリンタのUSBポートを接続します。

- プリンタの電源の入れ方およびUSB端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 カメラの電源を入れます。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。
- カメラの電源を入れると、液晶モニタに接続先を選択する画面が表示されます。画面が表示されないときは、カスタムメニューの**[USB接続モード]**(P. 75)を**[オート]**に設定してください。

3 △▽で[プリント]を選択します。

- **[しばらくお待ちください]**と表示された後、カメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。「カスタムプリントでプリントする」(P. 85)へ進んでください。

注意

- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USBケーブルを抜いて、手順1からやりなおしてください。

かんたんプリントでプリントする

1 ◁▷を押して、プリントする画像をカメラに表示します。

- プリントしたい画像をカメラに表示してから、USBケーブルでカメラとプリンタを接続すると、すぐに右の画面が表示されます。

2 ▷を押します。

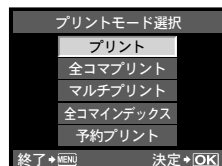
- プリントが終わると画像選択の画面が表示されます。別の画像をプリントするときは◁▷を押して画像を選択し、Ⓢボタンを押します。
- 終了するときは、画像選択の画面が表示された状態でカメラからUSBケーブルを抜きます。

カスタムプリントでプリントする

1 操作ガイドにしたがってプリントの各設定をします。

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下の通りです。

プリント	選択した画像をプリントします。
全コマプリント	カードの中の全画像をプリントします。
マルチプリント	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
全コマインデックス	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
予約プリント	プリント予約の内容にしたがってプリントします。あらかじめプリント予約された画像がないときは、選択できません。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

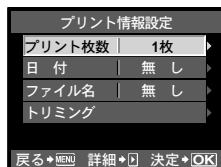
サイズ	プリンタで用意されている用紙に合わせます。
フチ	用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。
分割数	同じ画像を1枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで**[マルチプリント]**を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像を後でまとめてプリント(1枚予約)したり、表示している画像をプリントすることができます。

プリント(OK)	表示している画像をプリントします。[1枚予約]をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。
1枚予約(▲)	表示している画像をプリントする予約をします。[1枚予約]をしたら、◁▷で次に予約したい画像を選んでください。
詳細予約(▼)	表示している画像のプリント枚数や情報、プリントするかどうかを設定します。操作については「プリントする情報を設定する」をご覧ください。

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。**[全コマプリント]**モードの場合、**[オプション設定]**を選択すると右の画面が表示されます。

プリント枚数	プリントする枚数を設定します。
日付	画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。
ファイル名	画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。
トリミング	画像をトリミングしてプリントします。Qボタンまたは▦ボタンでトリミングサイズを、△▽◁▷でトリミング位置を指定します。

2 プリントする画像や内容が決まったら、[プリント]を選択し、Ⓢボタンを押します。

- プリントを始めてから途中で停止したいときは、Ⓢボタンを押します。プリントを続行するには、**[続行]**を押します。

■ プリントを中止するには

[中止]を選択しⓈボタンを押します。その場合、設定した予約などはすべて失われます。予約した内容を残して、続けて予約や設定をしたいときは、MENUボタンを押します。1つ前の設定に戻ります。

9 OLYMPUS Viewer 2 ／[ib]を使う

注意

- OLYMPUS Viewer 2はE-PL1sの同梱CD-ROMにのみ収録されています。

Windows

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れます。

Windows XPの場合

- 「セットアップ」画面が表示されます。

Windows Vista / Windows 7 の場合

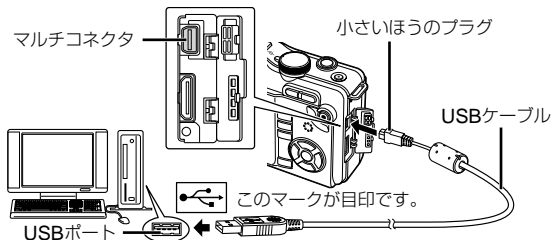
- 自動起動の画面が表示されますので、「OLYMPUS Setup」をクリックしてください。「セットアップ」画面が表示されます。

注意

- 「セットアップ」画面が表示されない場合は、スタートメニューから「マイコンピュータ」（Windows XP）/「コンピュータ」（Windows Vista）/「コンピューター」（Windows 7）をクリックし、次にCD-ROM（OLYMPUS Setup）のアイコンをダブルクリックして「OLYMPUSSetup」ウィンドウを開きます。最後に、「LAUNCHER.EXE」をダブルクリックしてください。
- 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」または「続行」をクリックしてください。

2 カメラをパソコンに接続します。

注意

- カメラをパソコンに接続しても、カメラの画面に何も表示されない場合、電池残量が著しく不足している可能性があります。充電した電池を使用してください。

注意

- カメラと他の機器をUSB接続すると、その機器との接続方法を選ぶ設定画面が表示されます。**[ストレージ]**に設定してください。

3 ユーザー登録を行います。

- 「ユーザー登録」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがって操作を行ってください。

4 OLYMPUS Viewer 2、[ib]（PC用ソフトウェア）のインストールを行います。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 2」または「OLYMPUS ib」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがってインストールを行ってください。

OLYMPUS Viewer 2	
OS	Windows XP（SP2 以上）/Windows Vista / Windows 7
CPU	Pentium 4 1.3GHz 以上
RAM	1GB 以上（2GB 以上推奨）
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、65,536色以上（1,677万色以上推奨）

[ib]	
OS	Windows XP（SP2 以上）/Windows Vista / Windows 7
CPU	Pentium 4 1.3GHz 以上（動画を扱う場合：Pentium D 3.0 GHz以上）
RAM	512MB 以上（1GB 以上推奨） （動画を扱う場合：1GB 以上、2GB以上推奨）
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、65,536色以上（1,677万色以上推奨）
グラフィックデバイス	64MB 以上のグラフィックメモリ、DirectX 9 以上に対応したグラフィックドライバ

* ソフトウェアの詳しい使い方は、各ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

Macintosh

1 パソコンのCD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを入れます。

- CD-ROMをMacに挿入すると自動的にFinderでドライブ内が表示されます。自動的に開かなかった場合は、デスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックしてください。
- 「Setup」アイコンをダブルクリックすると、「セットアップ」画面が表示されます。

2 OLYMPUS Viewer 2のインストールを行います。

- インストールを行う前に動作環境を確認してください。
- 「OLYMPUS Viewer 2」ボタンをクリックし、画面のメッセージにしたがってインストールを行ってください。

OLYMPUS Viewer 2	
OS	Mac OS X v10.4.11-v10.6
CPU	Intel Core Solo / Duo 1.5GHz以上
RAM	1GB 以上（2GB 以上推奨）
HDDの空き容量	1GB 以上
モニタ	1024×768 ドット以上、32,000色以上（1,677万色以上推奨）

* 言語を変更したい場合は、言語コンボボックスからご使用の言語を選択してください。ソフトウェアの詳しい使い方は、ソフトウェアのヘルプをご参照ください。

10 こんなときは？／カメラのお手入れ

こんなときは?

電池を入れてもカメラが動かない

電池が充電されていない

- 充電器で電池を充電してください。

低温下にあり、一時的に電池の性能が低下した

- 電池は低温下にあると性能が低下して、カメラを動かすための十分な充電量が確保できない場合があります。カメラから電池を一度取り出してポケットに入れるなどして少し温めてから使用してみましょう。

シャッターボタンを押しても撮影ができない

カメラが自動的に電源オフになっていた

- カメラは何も操作しないと一定時間後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、カメラは動作停止します。シャッターボタンなどいずれかのボタンを操作するとカメラは動作を再開します。☞「スリープ時間」(P. 74)
  さらに一定時間が経過するとカメラの電源が切れます。

フラッシュが充電中である

- 液晶モニタの⚡マークが点滅していたらフラッシュが充電中です。点滅が終わるまで待ってからシャッターボタンを押してください。

ピント合わせができなかった

- 液晶モニタの合焦マークが点滅しているときは、AFでピントを合わせることができなかったときです。シャッターボタンを押しなおしてください。

長秒時ノイズ低減が作動している

- 夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。このカメラは長秒時の撮影後にノイズを取り除く動作をしますが、この間、次の撮影はできません。**[長秒時ノイズ低減]**は**[OFF]**に設定することもできます。
  ☞「長秒時ノイズ低減」(P. 76)

日時設定がされていない

購入時のままで使用している

- お買い上げ時のカメラの状態では日時設定はされていません。日時設定をしてからご使用ください。☞「日時を設定する」(P. 7)

カメラから電池を抜いていた

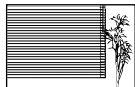
- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には日時の設定が正しいことを確認してください。

オートフォーカスの苦手な被写体

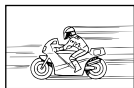
次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

合焦マーク点滅
このようなものにはピントが合いません。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

繰り返しパターン

合焦マークは点灯するが、写したいものにピントが合わない。

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

被写体がAFターゲット内にない

いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでピントを合わせた後、構図を決めて撮影してください。☞「フォーカスロックを使う」（P. 46）

撮影した画像が全体的に白っぽい

逆光や半逆光で撮影すると起こる場合があります。フレアやゴーストといわれる現象によるものです。できるだけ画面内に強い光源が写らないように構図を考えましょう。画面内に光源がなくてもフレアは発生する場合があります。レンズフードを使って光源から直接レンズに光があたらないようにします。レンズフードでも効果がない場合は手などをかざして光を遮ってみましょう。☞「交換レンズについて」（P. 97）

被写体にない明るい点が写り込む

撮像素子のドット抜けの可能性があります。**[ピクセルマッピング]**を行ってください。
また、消えないときは何度かピクセルマッピングを行ってみてください。☞「画像処理機能をチェックする ― ピクセルマッピング」（P. 94）

メニューで選べない機能がある

メニューを表示したとき、十字ボタンを使っても選べない項目がある場合があります。

- 現在の撮影モードで設定できない項目の場合
- すでに設定済みの項目との組み合わせの関係で設定できない場合：
  [□]と**[長秒時ノイズ低減]**の組み合わせなど。

電源を切るとカメラが振動する

これは手ぶれ補正機構の初期化動作で、この動作を行わないと、適正な補正効果が得られない場合があります。

設定した機能が元に戻ってしまう

P/**A**/**S**/**M**以外の撮影モードでは、モードダイヤルを回したり電源を切ると設定した機能が初期設定に戻ります。

エラーコード

液晶モニタ表示	原因	対処方法
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードを初期化してください。初期化できない場合、このカードはご使用になれません。
書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。スイッチを戻して解除してください。（P. 95）
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに十分な空き容量がありません。	
カードセットアップ カードの金属面を乾拭きしてください。 カードを拭く カード初期化 決定 OK	カードが読み込めていません。またはカードが初期化されていません。	• **[カードを拭く]**を選択し、Ⓞボタンを押してカメラの電源を切ります。カードを抜いて乾いた柔らかい布で金属面を乾拭きしてください。 • **[カード初期化]** ▶ **[実行]**の順に選択し、Ⓞボタンを押して初期化します。初期化すると、カード内のデータはすべて消去されます。
画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

液晶モニタ表示	原因	対処方法
この画像は編集できません	他のカメラで撮影した画像などを選択している場合は編集できません。	パソコンの画像ソフトなどで編集してください。
°C/°F	連写などによりカメラの内部温度が上昇しています。	カメラの電源を切り、内部温度が下がるまでしばらくお待ちください。
しばらく使用できません カメラの内部温度が下がるまでお待ちください		しばらくすると、自動的に電源が切れます。 カメラの内部温度が下がって撮影可能になるまでしばらくお待ちください。
電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。
接続されていません	カメラがパソコンまたはプリンタに正しく接続されていません。	カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。
ズームリングを回して繰り出してください。	沈胴式レンズの、レンズが沈胴したままになっています。	レンズを繰り出してください。
レンズの状態を確認してください。	レンズとの間でエラーが発生しています。	カメラの電源を切り、レンズとの接続状態を確認してから電源を入れなおしてください。

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⒺマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

カメラのお手入れと保管

カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。その後、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

液晶モニタ：

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ：

- 市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り換えて、カメラの機能をテストしてください。

撮像素子のクリーニングとチェック

このカメラは撮像素子にゴミが付着しない構造にするとともに、撮像素子前面に付着したゴミやほこりを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、カメラの電源を入れたときに働きます。
また撮像素子と画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、カビが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

撮像素子と画像処理機能のチェックを同時に行います。最適な効果を得るため、撮影·再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 カスタムメニュー（P. 71）のタブで[ピクセルマッピング]を選択します。

2 ▷を押して、ボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中の**[処理中]**バーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

10

こんなときは？／カメラのお手入れ

カードについて

使用できるカード

本書では、記録メディアを「カード」と呼びます。このカメラで使用できるカードは、SD規格に準拠したSDメモリーカード、SDHCメモリーカード(別売)です。最新情報は当社ホームページをご確認ください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについて

SDカード本体は書き込み禁止スイッチを備えています。スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやデータの消去、フォーマットができなくなります。スイッチを戻すと書き込み可能になります。

注意

- 初期化や消去してもカード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードを初期化する

他のカメラやパソコンで初期化したカードを使用する場合は、必ずこのカメラで初期化しなおしてください。

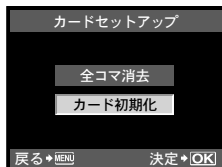
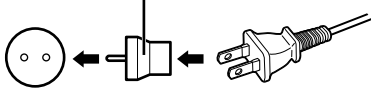
初期化すると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。

すでに使用しているカードを初期化するときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 撮影メニュー1 (P. 106)で、[カードセットアップ]を選択します。

2 [カード初期化]を選択します。

3 [実行]を選択して、OKボタンを押します。

- 初期化が実行されます。

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（E-PL1：BLS-1/E-PL1s：BLS-5）1個を使用します。当社純正電池以外は使用できません。
  E-PL1にBLS-5は使用できますが、充電は必ず専用の充電器（BCS-5）をご使用ください。
  E-PL1sにはBLS-5をご使用ください。
- 充電の際は、それぞれの充電池に対応した充電器をお使いください。
  BLS-1の場合はBCS-1、BLS-5の場合はBCS-5が専用充電器です。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。
- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に付属の充電器（BCS-1/BCS-5）で充電を行ってください。
- 付属の充電器による充電池の充電時間は、通常約3時間30分（目安）です。
- 付属の電池は専用の充電器以外は使用しないでください。また、付属の充電器は専用の電池以外に使用しないでください。

注意

- 指定以外の電池を使用した場合、爆発（または破裂）の危険があります。使用済み電池は取扱説明書の「電池について」（P. 114）にしたがって廃棄してください。

海外での使用について

- 充電器は、世界中のほとんどの家庭用電源AC100 ～ 240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプター（市販）が必要になる場合があります。
- イラストの変換プラグアダプター（市販）は一例です。詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。

- 市販の海外旅行用電子式変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器が故障することがありますので使用しないでください。

交換レンズについて

撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。レンズは専用レンズ（マイクロフォーサーズマウント）をご使用ください。「フォーサーズシステムレンズ」を使うにはアダプター（別売）が必要になります。また、OMシステムのレンズを使用するためのアダプター（別売）も用意されています。

M. ZUIKO DIGITAL用交換レンズ

「フォーサーズシステム」からさらに薄型化・小型化を追求した「マイクロフォーサーズシステム」専用の交換レンズです。

マイクロフォーサーズシステムレンズの焦点距離と被写界深度について

35mm判カメラに対してマイクロフォーサーズシステムカメラは、同じ焦点距離、同じ絞り値に対して得られる効果が異なります。

焦点距離

35mm判カメラと同じ焦点距離に対して、2倍相当の望遠効果が得られます。そのため、小型の望遠レンズ設計が可能です。たとえば、マイクロフォーサーズシステムレンズ14－42 mmは、35mm判換算で28－84mmに相当します。

- マイクロフォーサーズシステムレンズの画角を35mm判換算した場合、得られる遠近感は35 mm判カメラと同じです。

被写界深度

35mm判カメラに対して2倍相当の深い深度が得られます。たとえば、F2.8の明るさのマイクロフォーサーズシステムレンズは、35mm判換算でF5.6に相当します。

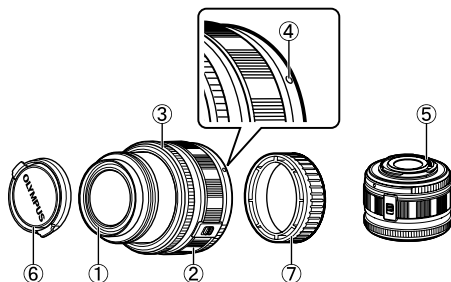
- 背景のボケ量は、35mm判換算した値で得られる効果と同じです。

注意

- ボディキャップやレンズの着脱を行うときは、カメラ内部へのゴミや異物の侵入を防ぐため、レンズの装着部を下に向けて行ってください。
- ほこりの多い場所ではボディキャップの取り外しや、レンズの装着を行わないでください。
- カメラに取り付けられたレンズを、太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。
- ボディキャップ、リアキャップをなくさないようにご注意ください。
- カメラにレンズを取り付けていないときは、ほこりの侵入を防ぐためボディキャップを装着してください。

主なM. ZUIKO DIGITALレンズの仕様

■ 各部の名称

① フィルター取り付けネジ
② ズームリング
③ フォーカスリング
④ 取り付け指標
⑤ 電気回路接点
⑥ フロントキャップ
⑦ リアキャップ

■ レンズとカメラの組み合わせ

レンズ	カメラ	装着	AF	測光
マイクロフォーサーズマウント規格レンズ	マイクロフォーサーズマウント規格カメラ	可	可	可
フォーサーズマウント規格レンズ		マウントアダプター装着で可	可*1	可
OMシステムレンズ			不可	可*2
マイクロフォーサーズマウント規格レンズ	フォーサーズマウント規格カメラ	不可	不可	不可

*1 ［AF方式］の［C-AF］および［C-AF+TR］は使用できません。
*2 正確な測光はできません。
マイクロフォーサーズマウント規格レンズとマイクロフォーサーズマウント規格カメラには右のマークが付いています。

■ 主な仕様

項目	14–42mm L	14–42mm II	17mm	40–150mm		14–150 mm
マウント	マイクロフォーサーズマウント			フォーサーズマウント	マイクロフォーサーズマウント	
焦点距離	14 ～ 42mm	14 ～ 42mm	17mm	40～150mm	40～150mm	14～150mm
最大口径比	F3.5 ～ 5.6	F3.5 ～ 5.6	F2.8	F4.0 ～ 5.6	F4.0 ～ 5.6	F4.0 ～ 5.6
画角	75.4° ～ 28.9°	75° ～ 29°	64.9°	30° ～ 8.2°	30.3° ～ 8.2°	75° ～ 8.2°
レンズ構成	8群9枚	7群8枚	4群6枚	9群12枚	10群13枚	11群15枚
	多層膜コーティング					
絞り制御	F3.5 ～ 22	F3.5 ～ 22	F2.8 ～ 22	F4.0 ～ 22	F4.0 ～ 22	F4.0 ～ 22
撮影距離	0.25m～ ∞	0.25m～ ∞	0.2m～ ∞	0.9m～ ∞	0.9m～ ∞	0.5m～ ∞
ピント調整方式	AF/MF切り換え					
質量（フード、キャップを除く）	133 g	112 g	71 g	220 g	190 g	260 g
大きさ（最大径×全長）	ø62×43.5mm	ø56.5×50mm	ø57×22mm	ø65.5×72mm	ø63.5×83mm	ø63.5×83mm
フィルター取り付けネジ径	40.5mm	37mm	37mm	58mm	58mm	58mm

■ 保管上のご注意

- 使用後は清掃して保管してください。レンズ面のゴミや汚れは、ブロアーブラシや刷毛で取り除きます。レンズの汚れは市販のレンズクリーニングペーパーを使ってください。有機溶剤は使わないでください。
- 必ず前後のレンズキャップを取り付けて保管してください。
- 防虫剤のあるところに保管しないでください。

注意

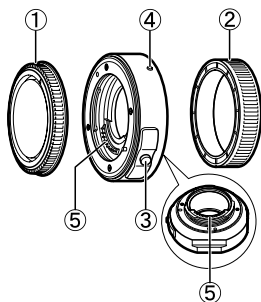
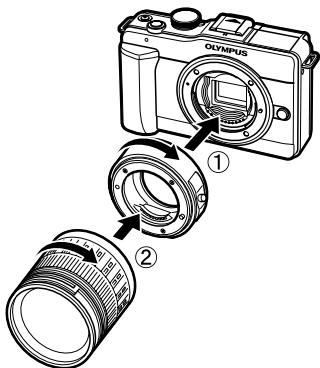
- フィルターを2枚以上重ねたり、厚みがある種類を使用したときは、画面にけられが生じることがあります。

フォーサーズアダプター

■ 各部の名称

① フロントキャップ
② リアキャップ
③ レンズ取り外しボタン
④ 取り付け指標
⑤ 電気回路接点

■ 取り付け方

11
資料

電子ビューファインダー（別売）を使う

電子ビューファインダー（別売:VF-2）を使用すると、撮影画面をファインダーで見ることができます。日中などとても明るい場所で液晶モニタが見にくいときや、ローアングルで使用するときに便利です。電子ビューファインダーの取扱説明書も合わせてご覧ください。

1 カメラの電源を切ります。

2 カメラ本体のホットシューカバーをスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管してください。

3 電子ビューファインダーのコネクタカバーを外します。

4 カメラ本体のホットシューに合わせ、止まるまで差し込みます。

- 電子ビューファインダーの下部を押して差し込んでください。

5 カメラの電源を入れます。

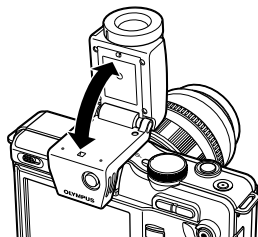
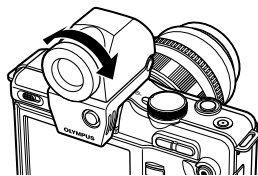
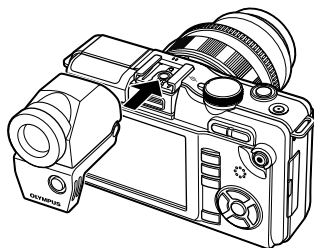
6 |□|ボタンを押すたびに、液晶モニタ表示と電子ビューファインダー表示が切り換わります。

- 電子ビューファインダーの明るさと色温度を調整することができます。
  ☞「EVF調整」（P. 74）

7 視度補正リングを回し、ファインダーで見える像がはっきり見える位置に合わせます。

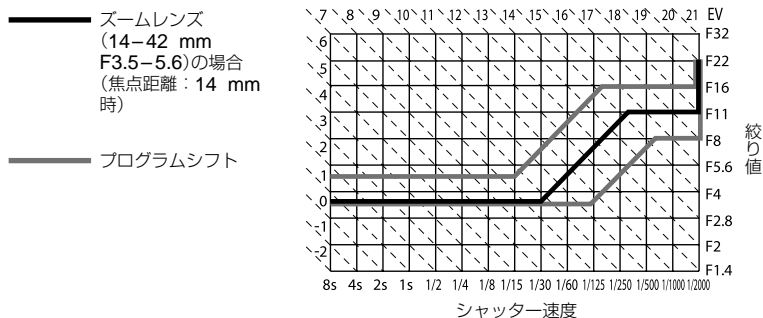
- 電子ビューファインダーは、お好みの角度に変更できます（最大90°）。

ⓘ 注意

- 外部フラッシュと電子ビューファインダーを併用して使うことはできません。
- 持ち運びの際は、電子ビューファインダーを持たないでください。カメラが外れて落下することがあります。
- 電子ビューファインダーを直射日光のあたる場所に放置しないでください。

プログラム線図(Pモード)

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ(プログラム線図)のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

ズームレンズ(14–42 mm F3.5–5.6)の場合(焦点距離：14 mm時)

プログラムシフト

露出警告表示

シャッターボタンを半押ししたとき、適正な露出が得られない場合は液晶モニタの表示が点滅します。

撮影モード	警告表示例(点滅)	状態	対処方法
P	60" F2.8	被写体が暗すぎます。	• ISO感度を上げてください。 • フラッシュを使用してください。
	2000 F22	被写体が明るすぎます。	• ISO感度を下げてください。 • 市販のNDフィルター(光量調節用)
A	30" F5.6	露出アンダーです。	• 絞り値を小さくしてください。 • ISO感度を上げてください。
	2000 F5.6	露出オーバーです。	• 絞り値を大きくしてください。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター(光量調節用)を使用してください。
S	2000 F2.8	露出アンダーです。	• シャッター速度を遅くします。 • ISO感度を上げてください。
	2000 F22	露出オーバーです。	• シャッター速度を速くします。 • ISO感度を下げるか、市販のNDフィルター(光量調節用)を使用してください。

• 使用されるレンズおよび焦点距離により、点滅時の絞り値は変わります。

シャッター速度連動範囲

撮影モード	フラッシュ発光秒時	同調秒時上限*1	発光固定秒時*2
P	1/（レンズの焦点距離× 2)または同調秒時設定のいずれか遅いほう	1/160	1/60
A			
S	同調秒時設定		—
M			

*1 メニューで変更可：1/60–1/160 ☞「⚡同調速度」（P. 75）
*2 メニューで変更可：1/30–1/160 ☞「⚡低速制限」（P. 75）

撮影モード別使用可能なフラッシュ発光モード

撮影モード	スーパーコンパネの表示	フラッシュ発光モード	発光タイミング	発光許可条件	シャッター速度制限条件
P/A	⚡ AUTO	オート発光	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*1のとき発光	1/30秒～ 1/160秒
	👁	オート発光（赤目軽減）			
	⚡	強制発光		いつでも発光	
	⊘	発光禁止	—	—	—
	👁 SLOW	スローシンクロ（赤目軽減）	先幕シンクロ	暗いとき、逆光*1のとき発光	60秒～ 1/160秒
	⚡ SLOW	スローシンクロ（先幕シンクロ）			
	⚡ SLOW2	スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ		
S/M	⚡	強制発光	先幕シンクロ	いつでも発光	60秒～ 1/160秒
	👁⚡	強制発光（赤目軽減）			
	⊘	発光禁止	—	—	—
	2nd CURTAIN	強制発光／スローシンクロ（後幕シンクロ）	後幕シンクロ	いつでも発光	60秒～ 1/160秒

*1 専用フラッシュがスーパー FPモードに設定されているとき、通常のフラッシュ発光秒時以上で逆光を判定して発光します。
- iAUTOでは⚡**AUTO**、⊘のみ選択できます。

設定可能な焦点距離

8 mm	10 mm	12 mm	16 mm	18 mm	21 mm	24 mm	28 mm	30 mm
35 mm	40 mm	48 mm	50 mm	55 mm	65 mm	70 mm	75 mm	80 mm
85 mm	90 mm	100 mm	105 mm	120 mm	135 mm	150 mm	180 mm	200 mm
210 mm	250 mm	300 mm	350 mm	400 mm	500 mm	600 mm	800 mm	1000 mm

- レンズに記載の数値、またはその数値に一番近い値を選択してください。

専用フラッシュ

このカメラでは、別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。カメラとの通信機能があり、TTL-AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。また、ブラケットケーブル(別売)を使用して専用のフラッシュブラケットに取り付けることもできます。専用フラッシュの取扱説明書も合わせてご覧ください。

専用フラッシュの機能比較

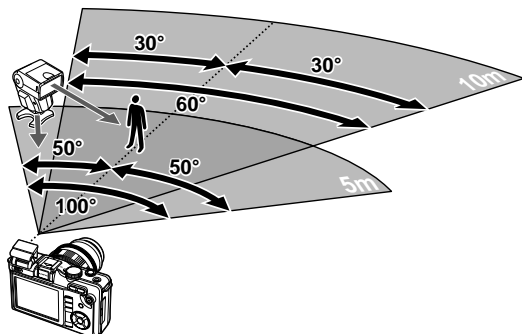
専用フラッシュ	FL-50R	FL-36R	FL-20	FL-14	RF-11	TF-22
調光モード	TTL-AUTO, AUTO, MANUAL, FP TTL AUTO, FP MANUAL		TTL-AUTO, AUTO, MANUAL		TTL-AUTO, MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85mm*時）GN28（24 mm*時）	GN36（85mm*時）GN20（24 mm*時）	GN20（35mm*時）	GN14（28mm*時）	GN11	GN22
RCモード	○	○	×	×	×	×

* カバーできるレンズ焦点距離（35 mmフィルムカメラ換算）

ワイヤレスRCフラッシュ撮影

RCモード機能付き専用フラッシュではワイヤレスフラッシュ撮影ができます。内蔵フラッシュで、最大3個までのフラッシュを別々に発光制御できます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

■ ワイヤレスフラッシュの制御可能範囲

ワイヤレスフラッシュのリモートセンサーをカメラ側に向けて設置します。次の図は設置範囲の目安です。範囲は周辺環境により異なります。

注意

- メニューで[⚡RCモード]を[ON]にした場合、ワイヤレスフラッシュがないとフラッシュ撮影はできません。

11 資料

マイモード／カスタムリセット設定で登録可能な機能

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
露出補正	✔	✔
手ぶれ補正	✔	✔
[連写/セルフタイマー]*	✔	✔
フラッシュモード	✔	✔
仕上がり	✔	✔
画質モード 静止画	✔	✔
画質モード ムービー	✔	✔
アスペクト比設定	✔	✔
フラッシュ補正	✔	✔
AE BKT	✔	✔
WB BKT	✔	✔
FL BKT	✔	✔
ISO BKT	✔	✔
多重露出	—	—
日時設定	—	—
[言語設定]	—	—
モニタ調整	—	—
撮影確認	—	✔
[カスタム]メニュー表示	—	—
バージョン	—	—
AF方式 静止画	✔	✔
AF方式 ムービー	—	✔
AFターゲット選択	✔	✔
レンズリセット	—	—
BULB中MF	—	—
フォーカスリング	—	✔
MFアシスト	—	✔
[···]HOME登録	—	—
AEL/AFLモード	—	✔
AEL/AFL MEMO	—	✔
Fnボタン機能	—	✔
◉ボタン機能	—	✔
マイモード設定	—	—
ボタンON保持時間	—	—
レリーズ優先S	✔	✔
レリーズ優先C	✔	✔
HDMI	—	—
ビデオ出力	—	—
スリープ時間	—	✔
LVブースト	—	✔
[顔]顔検出	—	—
[表示]/INFO表示設定	—	✔
[カメラ]CONTROL表示	—	—

機能	マイモードの登録可否	カスタムリセットの登録可否
ヒストグラム警告設定	—	—
EVF調整	—	—
バックライト時間	—	—
モードガイド表示	—	—
[再生]拡大モード	—	—
電子音	—	✔
音量	—	—
USB接続モード	—	—
露出ステップ	✔	✔
測光	✔	✔
AEL測光モード	—	✔
ISO感度	✔	✔
ISO感度ステップ	✔	✔
ISOオート設定	—	✔
ISOオート有効	—	✔
BULBリミッター	—	✔
低振動モード[♦]	✔	✔
[フラッシュ]同調速度	✔	✔
[フラッシュ]低速制限	✔	✔
[フラッシュ補正]+[露出補正]連動	—	✔
長秒時ノイズ低減	✔	✔
高感度ノイズ低減	✔	✔
WBモード	✔	✔
全WBモード補正	—	—
カラー設定	✔	✔
シェーディング補正	✔	✔
画質設定	—	✔
ピクセルサイズ	—	✔
ワンプッシュ消去	—	✔
RAW+JPEG消去	—	✔
ファイルネーム	—	✔
ファイルネーム編集	—	—
実行優先設定	—	—
dpi設定	—	—
[ムービー]モード	—	—
ムービー +静止画撮影	—	✔
ムービー録音	—	✔
ピクセルマッピング	—	✔
露出基準調整	—	✔
[電池]警告レベル	—	—

✔：登録可

—：登録不可

* 低振動モードを含む

11 資料

画質モード／ファイル容量／撮影可能枚数

表内のファイルサイズは、アスペクト比4：3のときのおおよその目安です。

画質モード	画像サイズ（ピクセルサイズ）	圧縮率	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数 *1
RAW	4032×3024	ロスレス圧縮	ORF	約14	54
L SF		1/2.7	JPEG	約8.4	101
L F		1/4		約5.9	145
L N		1/8		約2.7	320
L B		1/12		約1.8	477
M SF	3200×2400	1/2.7		約5.6	154
M F		1/4		約3.4	255
M N		1/8		約1.7	504
M B		1/12		約1.2	747
M SF	2560×1920	1/2.7		約3.2	269
M F		1/4		約2.2	395
M N		1/8		約1.1	776
M B		1/12		約0.8	1143
M SF	1600×1200	1/2.7		約1.3	673
M F		1/4		約0.9	993
M N		1/8		約0.5	1893
M B		1/12		約0.4	2753
S SF	1280×960	1/2.7		約0.9	1044
S F		1/4		約0.6	1514
S N		1/8		約0.3	2884
S B		1/12		約0.3	4038
S SF	1024×768	1/2.7		約0.6	1594
S F		1/4		約0.4	2243
S N		1/8		約0.3	4038
S B		1/12		約0.2	5507
S SF	640×480	1/2.7		約0.3	3563
S F		1/4		約0.2	5048
S N		1/8		約0.2	8654
S B		1/12		約0.1	10096

*1 SDカード1GBの場合

注意

- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。
- 液晶モニタに表示される撮影枚数は9999までです。
- ムービーの録画可能時間については、当社ホームページをご確認ください。

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能			初期設定	☞
1	カードセットアップ			—	P. 66、95
	カスタムリセット設定			—	P. 70
	仕上がり			NATURAL	P. 52
	画質モード	静止画		LN	P. 31
		ムービー		HD	
	アスペクト比設定			4:3	P. 32
2					P. 30
	手ぶれ補正			I.S. 1	P. 50
	ブラケット撮影	AE BKT		OFF	P. 48
		WB BKT	A–B	OFF	P. 49
			G–M		
		FL BKT		OFF	P. 49
		ISO BKT		OFF	P. 49
	多重露出	コマ数		OFF	P. 51
		自動ゲイン補正		OFF	
		再生画+多重		OFF	
	フラッシュ補正			±0	P. 55
	RCモード			OFF	P. 103

再生メニュー

タブ	機能			初期設定	☞
▶	スライドショー	スタート		—	P. 62
		BGM		MELANCHOLY	
		スライド		すべて	
		1コマ再生時間		3秒	
		ムービー再生		ショート	
	編集	画像選択	RAW編集	—	P. 63
			JPEG編集	—	P. 63
			録音	—	P. 65
		画像合成		—	P. 64
	プリント予約			—	P. 82
	全プロテクト解除			—	P. 66

セットアップメニュー

タブ	機能	初期設定	☞
	日時設定	—	P. 7
		日本語	P. 69
	モニタ調整	±0, ±0	P. 69
	撮影確認	5秒	P. 69
	メニュー表示	OFF	P. 71
	バージョン	—	P. 69

11 資料

カスタムメニュー

タブ		機能		初期設定		☞
	A	AF/MF				P. 72
		AF方式	静止画	S-AF		P. 44
			ムービー			
		AFターゲット選択		[::::]		P. 45
		レンズリセット		ON		P. 72
		BULB中MF		ON		P. 72
		フォーカスリング		↻		P. 72
		MFアシスト		OFF		P. 72
		[▪▪▪]HOME登録		[::::]		P. 72
	B	ボタン				P. 72
		AEL/AFLモード		S-AF	mode1	P. 79
				C-AF	mode2	
				MF	mode1	
		AEL/AFL MEMO		ON		P. 72
		Fnボタン機能		フェイス&バック		P. 80
		◉ボタン機能		◉REC		P. 80
		マイモード設定		—		P. 73
		ボタンON保持時間		8秒		P. 73
	C	レリーズ				P. 73
		レリーズ優先S		OFF		P. 73
		レリーズ優先C		ON		P. 73
	D	表示／音／接続				P. 73
		HDMI	HDMI出力	1080i優先		P. 73
			HDMIコントロール	OFF		
		ビデオ出力		NTSC		P. 73
		スリープ時間		1分		P. 74
		LVブースト		OFF		P. 74
		☻顔検出		ON		P. 32、74
		▦/INFO表示設定	▶INFO	表示OFF，総合		P. 74
			LV-INFO	表示OFF，ヒストグラム		
			▦表示	25コマ，カレンダー		
		📷CONTROL表示	iAUTO	ライブガイド		P. 74
			P/A/S/M	LVコントロール		
			ART/SCN	LVコントロール		
		ヒストグラム警告設定	ハイライト表示	255		P. 74
			シャドー表示	0		
		EVF調整		🌡 ±0, ☼ ±0		P. 74
		バックライト時間		HOLD		P. 74
		モードガイド表示		ON		P. 74
		▶拡大モード		mode1		P. 60、74
		電子音		ON		P. 75
		音量		3		P. 75
		USB接続モード		オート		P. 75

11 資料

タブ		機能		初期設定		☞
⚙	E	露出／測光／ ISO				P. 75
		露出ステップ		1/3EV		P. 75
		測光		[ESP]		P. 47
		AEL測光モード		オート		P. 75
		ISO感度		オート		P. 41
		ISO感度ステップ		1/3EV		P. 75
		ISOオート設定		上限値：1600 基準値：200		P. 75
		ISOオート有効		P/A/S		P. 75
		BULBリミッター		8分		P. 75
		低振動モード[♦]		OFF		P. 75
	F	フラッシュ				P. 75
		⚡同調速度		1/160		P. 75
		⚡低速制限		1/60		P. 75
		⚡±+±連動		OFF		P. 75
	G	画質／色／ WB				P. 76
		長秒時ノイズ低減		オート		P. 76
		高感度ノイズ低減		標準		P. 76
		WBモード		オート	A –7 ～ +7, G –7 ～ +7	P. 41
		全WBモード補正	ALL SET	—		P. 76
			ALL CLEAR	—		P. 76
		カラー設定		sRGB		P. 76
		シェーディング補正		OFF		P. 76
		画質設定		—		P. 76
		ピクセルサイズ	Middle	2560 × 1920		P. 77
			Small	1280 × 960		
	H	記録／消去				P. 77
		ワンプッシュ消去		OFF		P. 77
		RAW+JPEG消去		RAW+JPEG		P. 77
		ファイルネーム		オート		P. 77
		ファイルネーム編集		OFF		P. 77
		実行優先設定		中止優先		P. 78
		dpi設定		オート		P. 78
	I	動画				P. 78
		🎥モード		**P**		P. 56
		ムービー +静止画撮影		OFF		P. 58
		ムービー録音		ON		P. 57
	J	その他				P. 78
		ピクセルマッピング		—		P. 94
		露出基準調整	[ESP]	±0		P. 78
			[中央重点]			
			[スポット]			
		🔋警告レベル		±0		P. 78

11

資料

仕様

カメラ

型式	
型式	マイクロフォーサーズ規格準拠レンズ交換式カメラ
使用レンズ	M.ZUIKO DIGITAL・マイクロフォーサーズシステムレンズ
レンズマウント	マイクロフォーサーズマウント
35 mmフィルムカメラ換算焦点距離	レンズ焦点距離の約2倍
撮像素子	
型式	4/3型Live MOSセンサー
カメラ部有効画素数	約1230万画素
画面サイズ	17.3 mm（H）×13.0 mm（V）
アスペクト比	1.33（4:3）
ライブビュー	
センサー	Live MOSセンサー使用
視野率	100%
液晶モニタ	
型式	2.7型TFTカラー液晶
総画素数	約23万ドット
シャッター	
型式	電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/2000 ～ 60秒、バルブ撮影
オートフォーカス	
型式	イメージャコントラスト検出方式
測距点	11点
測距点選択	自動選択・任意選択
露出制御	
測光方式	TTL測光方式（イメージャ測光） デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光
測光範囲	EV0 ～ 18（デジタルESP測光／中央重点平均測光／スポット測光）
撮影モード	iAUTO：iオート／ **P**：プログラムAE（プログラムシフト可能）／ **A**：絞り優先AE ／ **S**：シャッター優先AE ／ **M**：マニュアル／ ART：アートフィルター／ SCN：シーン／ ムービーアイコン：ムービー
ISO感度	E-PL1：100 ～ 3200（1/3、1ステップ） E-PL1s：100 ～ 6400（1/3、1ステップ）
露出補正	±3EV（1/3、1/2、1ステップ）
ホワイトバランス	
型式	撮像素子
設定方式	オート／プリセット（8種）／カスタムWB ／ワンタッチWB
記録	
記録媒体	SDメモリーカード／ SDHCメモリーカード
記録方式	デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ
対応規格	Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III、PictBridge
静止画音声	Waveフォーマットに準拠
動画	AVI Motion JPEGに準拠
音声	PCM 44.1kHz
再生	
表示形式	1コマ表示／拡大表示／インデックス表示／カレンダー表示

ドライブ関係	
ドライブモード	1コマ撮影／連写／セルフタイマー
連写性能	3コマ／秒
セルフタイマー	12秒後撮影／ 2秒後撮影
フラッシュ	
シンクロ同調	1/160秒以下で同調
調光方式	TTL-AUTO（TTLプリ発光式）／ AUTO ／ MANUAL
フラッシュ接点	ホットシュー
ワイヤレスフラッシュ機能	オリンパスワイヤレスRCフラッシュシステムに対応
外部コネクタ	
マルチコネクタ（USB端子／ AV端子）／ HDMIミニコネクタ（タイプC）／アクセサリーポート	
電源	
電池	E-PL1：リチウムイオン電池（BLS-1）1個 E-PL1s：リチウムイオン電池（BLS-5）1個
大きさ・質量	
大きさ	114.6 mm（幅）× 72.2 mm（高さ）× 41.5 mm（奥行き）（突起部を除く）
質量	E-PL1：約344 g（電池／カードを含む） E-PL1s：約342 g（電池／カードを含む）
動作環境	
温度	0℃～ 40℃（動作時）／ –20℃～ 60℃（保存時）
湿度	30% ～ 90%（動作時）／ 10% ～ 90%（保存時）

HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing、LLCの商標または登録商標です。

電池・充電器

■ リチウムイオン電池BLS–1（E–PL1）

MODEL NO.	PS-BLS1
形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.2 V
公称容量	1150 mAh
充放電回数	約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（充電）
大きさ	約35.5 mm（幅）× 12.8 mm（高さ）× 55 mm（奥行き）
質量	約46 g

■ リチウムイオン電池BLS–5（E–PL1s）

MODEL NO.	BLS–5
形式	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	DC7.2 V
公称容量	1150 mAh
充放電回数	約500回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（充電）
大きさ	約35.5 mm（幅）× 12.8 mm（高さ）× 55 mm（奥行き）
質量	約44 g

■ リチウムイオン充電器BCS–1（E–PL1）

MODEL NO.	PS-BCS1
定格入力	AC100 V ～ 240 V（50/60 Hz）
定格出力	DC8.35V、400mA
充電時間	約3時間30分（常温）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（動作時）／ –20℃～ 60℃（保存時）
大きさ	約62 mm（幅）×38 mm（高さ）×83 mm（奥行き）
質量	約72 g（電源ケーブル含まず）

■ リチウムイオン充電器BCS–5（E–PL1s）

MODEL NO.	BCS–5
定格入力	AC100 V ～ 240 V（50/60 Hz）
定格出力	DC8.35V、400mA
充電時間	約3時間30分（常温）
使用周囲温度	0℃～ 40℃（動作時）／ –20℃～ 60℃（保存時）
大きさ	約62 mm（幅）×38 mm（高さ）× 83 mm（奥行き）
質量	約70 g（電源ケーブル含まず）

- 付属のACケーブルは、本機専用のケーブルですので、他の機器に使用しないで下さい。また、他の機器のケーブルを本機に使用しないで下さい。

外観･仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない**
  以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってケーブル類やストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師に連絡し、指示を受けてください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない**
  火災や感電の原因となることがあります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
  連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。

- **分解や改造をしない**

  感電やけがをする原因となります。

- **内部に水や異物を入れない**

  火災や感電の原因になります。万一、水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**

  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。

- **専用の電池または充電器以外は使用しない**

  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用を中止する**

  火災や、やけどの原因となります。このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。(電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。)

- **濡れた手で操作しない**

  故障、感電の原因となることがあります。また充電器などの電源プラグの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。

- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**

  けがや事故の原因となることがあります。

- **高温になるところへ放置しない**

  部品の劣化、火災の原因となります。

- **充電器などのコードは傷つけたり、引っ張ったり、継ぎ足したりしない**

  コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持って行ってください。以下の場合は直ちに使用を中止し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグにキズ、断線、またはプラグに接触不良がある。

交換レンズについてのご注意

- **レンズまたは光学ビューファインダー(外付け)で直接太陽や強い光を見ない**

  失明や視力障害を起こすことがあります。

- **使用しないときはレンズキャップをつけて保管する**

  太陽光が入射して、火災の原因になることがあります。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**

  発火・破裂・火災の原因となります。

- **(+)(–)端子を金属等で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**

  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。

- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温の場所で使用・放置しない**

  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。

- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**

  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。

  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。

- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**

  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。

- **電池の液が目に入った場合は、失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流した後、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で電池を触ったり持ったりしない**
- **所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止する**

  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**

  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**

  破裂・発熱の原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止する**

  販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。**

⚠ 注意

- **カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さない**

  やけどの原因となることがあります。
- **長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておく**

  液漏れ・発熱により、火災・けが・故障の原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**

  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**

  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。
- **充電器を分解・改造しない**

  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**

  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破壊・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず電源プラグを持つ**

  電源プラグを持たないと、火災・感電の原因となることがあります。

  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行う**

  電源プラグを抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。

  直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。撮像素子の退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。

ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

- カメラを長期間使用しないと、カビが生えるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- カメラ本体や交換レンズの電気接点部には触れないでください。レンズを外したときは、ボディキャップを必ず取り付けてください。
- カメラの撮像素子に直接触れたり、また掃除したりしないでください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。
  海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 長期間保管する場合は、涼しいところに保管してください。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(+)端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
- 詳しくは一般社団法人JBRCホームページ(http://www.jbrc.com)をご覧ください。

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

レンズについて

- 水につけたり水をかけたりしないでください。
- 落下したり強い力を加えないでください。
- レンズの可動部で保持しないでください。
- レンズ面に直接触れないでください。
- 電気回路接点部に直接触れないでください。
- 急激な温度変化をかけないでください。
- 使用温度範囲は–10 ～ 40℃です。範囲内でご使用ください。

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

接続ケーブル、ACアダプタ（ACアダプタ対応機種のみ）は、必ず、当製品指定のものをお使いください。

指定品以外では、VCCI協会の技術基準を超えることが考えられます。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。

SDHCロゴは商標です。

階調自動調整機能は、Apical Limitedの特許技術を使用しています。

その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

Micro Four Thirds 及び
Micro Four Thirds ロゴマークは
オリンパスイメージング（株）の日本・米国・EU･その他各国の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

11
資料

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

11

資料

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
また、オンライン修理受付の詳細やインターネットでのお申し込み、修理に関するお問合せ先（修理センター、国内サービスステーションなど）、カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間につきましても当社ホームページで最新情報をお知らせしております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

便利でお得なサービスメニューをご用意しています

● オンライン修理受付のご案内

オンライン修理受付では、インターネットを利用して修理のお申し込みや修理の状況をご確認いただけます。また、下記にご案内しておりますピックアップサービス（引取修理）も、オンライン修理受付からお申し込みいただけます。

● ピックアップサービス（引取修理）のご案内

オリンパス指定の運送業者が、梱包資材を持ってお客様ご指定の日時にご自宅へお伺いし、故障した製品をお預かりします。お客様自身での梱包は不要です。その後弊社にて修理完成後、お客様のご自宅へ返送いたします。

電話でのお申し込みの場合：　「オリンパス修理ピックアップ窓口」
フリーダイヤル **0120-971995**
営業時間：平日8:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00（指定休業日を除く）

※ 記載内容は変更されることがあります。

Printed in China

VN653402